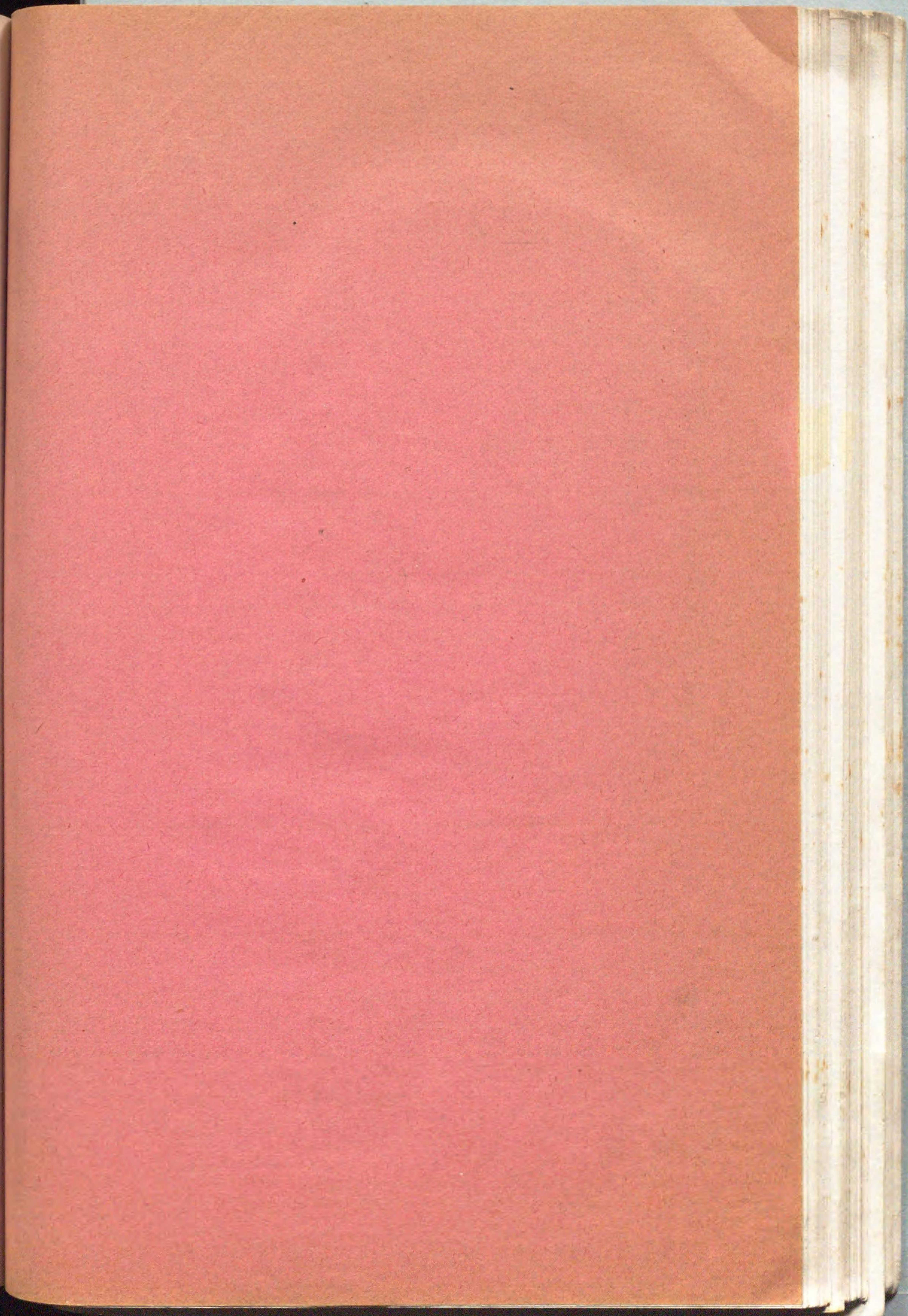
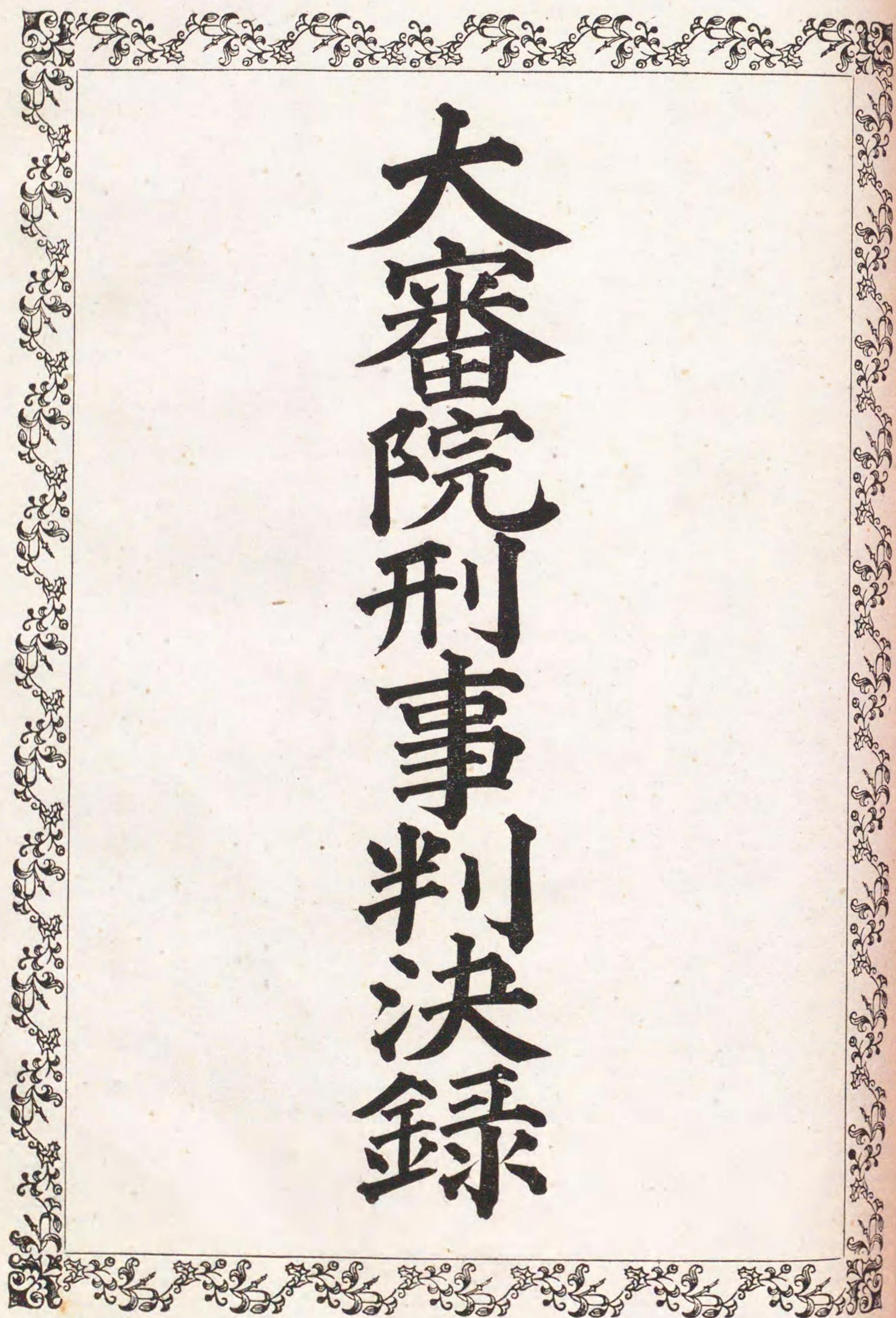


大審院刑事判決錄



大森倉庫事件

刑事件名目録

件名	關係事項	宣告日付	番號	訴訟關係人	丁數
官吏侮辱及誹毀ノ件	公訴ノ提起ナキ事件ノ處斷、誹毀罪告訴ノ拋棄	五月八日	三九八號	被告 太田久太郎 志毛井確太郎	五五
毆打創傷ノ件	從犯、沒收、心證ノ資料	五月十一日	三八九號	被告五十嵐九十郎	六二
竊盜ノ件	辯護人獨立ノ上告申立	五月十一日	四七四號	被告松井晉之陞	七一
紙幣偽造器械豫備ノ件	偽造器械ノ解釋	五月十五日	三八六號	被告佐野仲彌 外七名	七五
詐欺取財ノ件	原裁判取消	五月十五日	四二四號	被告笠松好造	七九
委託物費消ノ件	檢事ノ附帶控訴	五月廿二日	四七五號	被告小倉富之助	八四
堤防決潰ノ件	公訴附帶ノ私訴	五月廿五日	三五三號	被告横田進造	八八
毆打致死ノ件	毆打致死、犯所以外ニ於テ作リタル調書	六月六日	六一六號	被告大瀧四郎太	一〇二
誹毀罪抗告ノ件	上訴中ノ刑期起算	六月廿七日	六八一號	被告志毛井確太郎	一〇八
誣告ノ件	公判始末書ノ捺印	七月十日	六二〇號	被告櫻村糸吉	一一〇
詐欺取財證書偽造(證書變造)ノ件	被告人上告ノ目的	七月十七日	六七四號	被告林文三郎	一一七

刑事件名目録

刑事件名目録

私印私書偽造行使詐欺取財ノ件 冒認罪ノ共犯
私印盗用私書偽造行使詐欺取財ノ件 再犯加重

十七日 七五二號 被告 嵐田久治
十七日 七八四號 被告 弓場清次郎

一三三
一三六

刑事いろは索引

此索引ハ法語若クハ普通慣用スル文字ノ頭音ヲ取テいろはノ順ニ從テ排列編製シ以テ法理
及ヒ法律ノ適用等ヲ瞬時ニ指示スルノ便ニ供ス○頭音ハ必スシモ字音ノ假名遣ニ拘ラス人
ノ通常言フ所ノ音聲ニ據ル例之ハセウヲをウニスル、カ如シ

〔は〕

犯所以外ニ於テ作りタル調書

一〇一

資料ニ供シタルヲ以テ不法ノ裁判ト云フヲ
得ス

没收

六一

没收ノ法條ヲ舉示セスシテ犯罪ノ用ニ供シ
タル物件ヲ没收シタルハ不法タルヲ免レ

又三條四

冒認罪ノ共犯

一三三

冒認罪ハ共犯者財ヲ分チタルト否ヲ問ハス
現ニ其罪ヲ犯シ被害者ト親屬ノ關係ナキ者
ハ其制裁ヲ受クヘキハ當然ナルノミナラス
地所ヲ買受タル者ニ對シテモ罪ヲ成スモノ
ナレハ所有者ト親屬ノ關係アルノミヲ以テ
其罪ヲ論セサルモノト謂フヲ得ヘカラス何
ントナレハ刑法第三百九十八條ニ第三百七
十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論
セストノミアリテ親屬ニアラサル共犯者財
ヲ分チタルハニ限リ處罰スルノ法規ナケレ

〔へ〕

ハナリ
辯護人獨立ノ上告申立

七七

辯護人ノ上告申立ハ法定ノ期間内(三日)ナ
ルモ既ニ被告人自ラ其前日上告申立ヲ爲シ
タルハ辯護人ノ資格ニ於テ獨立シテ再度
申立ヲ爲スヲ得サルヲ以テ辯護人ノ申立
ハ其効ナキ者トス故ニ此場合ニ在テ辯護人
ノ上告申立ヲ爲シタル日ヨリ起算シテ被告
ノ趣意書差出シノ日ハ未タ法定ノ期間(五
日)ヲ經過セサルモノト爲スコトヲ得ス
二七三條 刑

〔を〕

毆打致死

一〇一

原判交事實理由ノ部ニ「彼等ヲ追散ラス目
的ヲ以テ同所ニ停止シ居タル被害者ノ左腿
節前外側ヲ突キ股動脈及ヒ股靜脈ヲ切斷シ
タル後」云々トアレハ故意ニ毆打シタルモ
ノト認ムルニ足レリ又其後段ニ「傷所ノ出
血多量ニシテ腦貧血症ヲ起シタル爲メ同所
ニ斃レ即死シタリ」云々トアレハ人ヲ毆打

刑事いろは索引

シ因テ死ニ致シタルト明白ナリ豈ニ之ヲ被害者ヲ退去セシムルノ目的ニ止リ毆打ノ故意ニ非スト云フヲ得ンヤ故ニ刑法第二百九十九條ヲ適用シテ之ヲ處分シタルハ相當ニテ擬律錯誤ニアラス又理由不備ナリト云フヲ得ス

〔け〕

原裁判取消

刑事訴訟法第二百六十二條ハ不當ニ管轄違ヲ言渡シタルトキノ處分法ニシテ控訴ヲ理由アリトシテ原判決ヲ取消スノ場合ニ適用スヘキ法條ニ非ス

検事ノ附帯控訴

第一審裁判所検事ノ控訴アリタル場合ト雖モ控訴裁判所検事ハ其相手方ニ非サルモ附帯控訴ヲ爲スヲ得ヘシ刑訴二五條

〔こ〕

公訴ノ提起ナキ事件ノ處斷

検事ヨリ公訴ノ提起ナキ事件ヲ處斷シタルハ法律ニ背キテ受理スヘカラサルモノヲ受理審判シタル不法ノ裁判ナリ

公訴附帯ノ私訴

公訴附帯ノ私訴ニ付テハ刑事訴訟法中特ニ規定アル場合ノ外ハ民事訴訟法ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス故ニ刑事訴訟法第二百七十一條ニ規定シタル期間内ニ上告申立書

〔じ〕

從犯

甲者カシ者ノ丙者ニ硫酸ヲ注キ掛ケテ創傷ヲ成サシメントスルノ情ヲ知り硫酸買取ニ要スル書面ヲ作爲シテシ者ニ渡シタルハ乙者ハ之ニ因テ硫酸一ポンドヲ買取シテ犯罪ヲ遂ケタルトキハ甲者ハ從犯ヲ以テ論スヘキモノナリ刑一〇九條

心證ノ資料

醫師ノ診斷書ハ豫審判事ニ於テ別ニ鑑定ヲ命シタルモノニ非レハ宣誓ヲ爲スヘキ道理ナシ而シテ豫審判事ノ命ニ非スシテ醫師若クハ私立醫院ノ名稱ヲ以テ作リタル診斷書ハ裁判上直チニ之ヲ無効トシテ心證ノ資料ニモ供ス可ラストノ法條法理ナケレハ之ヲ採用スルモ違法ナリト論スルヲ得ス

上訴中ノ刑期起算

上訴中未決勾留ヲ受ケサル者ニ在テハ上訴中ノ日數ヲ其刑期ニ算入セスシテ刑ノ執行ヲ爲スヘキモノトス

〔ひ〕

誹毀罪告訴ノ拋棄

刑法第三百五十八條ノ誹毀罪ハ被害者ノ告訴ヲ竣テ其罪ヲ論スヘキモノナリ故ニ該罪ニ於テ第二審判決後被害者カ告訴ノ取消願

ヲ差出サ、ルトキ民事訴訟法第五十條ヲ適用シ權利關係カ合一ニ確定スヘキモノナルヲ以テ上告期間ヲ懈怠シタル者ハ仍ホ懈怠セサル者ニ代理ヲ任シタルモノト看做スト云フヲ得ス

公判始末書ノ捺印

公判始末書ニ裁判長判事ノ署名ノミニテ捺印ナキハ法律ニ違背スル文書ナリ是ニシテ違法ナル上ハ正當ニ法則ヲ履行シタル公判ナルヤ否ヤヲ鑑査スルニ由シ無キヲ以テ破毀ノ原因ヲ免レサルモノトス刑訴二〇九條

〔さ〕

再犯加重

判決文理由ノ部ニ「再犯ニ係ルニ付各本刑ニ一等ヲ加ヘ」云々トノミ記シ適用スヘキ法條ヲ示サ、ルニ於テハ何等ノ理由ニ依リテ再犯ニ一等ノ重キヲ加フルカノ理由由明ナラス乃チ刑事訴訟法第二百三條第一項ノ規定ニ背キ理由ヲ明示セサル不法ノ判決ナリ

偽造器械ノ解釋

刑法第八十六條第二項ノ謂ハユル偽造ノ器械トハ貨幣偽造ニ直接必要ナル器械ヲ指スモノニテ其器械ヲ製造スルノ器具等ヲ指スニアラス故ニ石版印肉及ヒ彫刻針等ヲ購置スルニ止ルモノハ貨幣偽造ニ直接ニ関係

〔ち〕

ヲ豫備シタルト云フヲ得ス

六二

六一

一〇八

五五

一〇九

一三五

七五

六二

六一

一〇八

五五

二六

刑事法文表

刑法	丁數
四三條.....	六一
一〇九條.....	六一
一八六條二項.....	七五
二九九條.....	一〇一
三五八條.....	五五
三七七條.....	二三
三九八條.....	二三
刑事訴訟法	
二〇條.....	一一〇
二〇三條一項.....	一三五
二一〇條.....	一一〇
二五九條二項.....	八三
二六二條.....	七九
二七一條 <small>民訴五〇條參看</small>	七二
二七三條.....	七一

刑事法文表

刑事月日目錄

宣告月日	番號	判決結果	原控訴院	丁數
五月八日	三九八號	破毀	東京	五
五月十一日	三八九號	破毀	東京	六
五月十一日	四七四號	棄却	宮城	七
五月十五日	三八六號	棄却	大阪	七
五月十五日	四二四號	破毀	東京	七
五月廿二日	四七五號	破毀	大阪	八
五月廿五日	三五三號	棄却	東京	八
六月廿六日	六一六號	棄却	東京	一〇
六月廿七日	六八一號	棄却	宮城	一〇
七月十日	六二〇號	破毀	東京	一〇
七月十日	六七四號	棄却	廣島	一七

刑事月日目錄

刑事月日目錄

七月十日	七五一號	破毀	廣島	一三三
七月十日	七八四號	破毀	廣島	一三六

總計十三件
 棄却 六
 破毀 七

刑事人名音字目錄

人名	番號	原控訴院	丁數
五十嵐九十郎 <small>告被</small>	三八九號	東京	六一
林文三郎 <small>告被</small>	六七四號	廣島	一二七
太田久太郎 <small>告被</small>	三九八號	東京	五五
小倉富之助 <small>告被</small>	四七五號	大阪	八四
大竹龜吉 <small>對</small> 橫田進造	三五三號	東京	八八
大瀧四郎太 <small>告被</small>	六一六號	東京	一〇二
笠松好造 <small>告被</small>	四二四號	東京	七九
樫村糸吉 <small>告被</small>	六二〇號	東京	一一〇
橫田進造 <small>公訴被上告人</small> 私訴被告人			八八
卜部忠雄 <small>告被</small>			一三三
松井音之丞 <small>告被</small>	四七四號	宮城	七一
嵐田久治 <small>告被</small>	七五一號	廣島	一三三
佐野仲彌外七名 <small>告被</small>	三八六號	大阪	七五

刑事人名音字目錄

〔被〕

弓場清次郎

七八四號

廣島

一三六

〔告〕

志毛井確太郎

一〇八

大審院刑事判決録 自明治二十六年五月至七月

○判決要旨

検事ヨリ公訴ノ提起ナキ事件ヲ處斷シタルハ法律ニ背キテ受理ス
 ヘカラサルモノヲ受理審判シタル不法ノ裁判ナリ(判旨第一點)
 刑法第三百五十八條ノ誹毀罪ハ被害者ノ告訴ヲ竣テ其罪ヲ論スヘ
 キモノナリ故ニ該罪ニ於テ第二審判決後被害者カ告訴ノ取消願ヲ
 差出シタルハ即チ告訴ノ拋棄アリタルモノニシテ公訴ハ之ニ因テ
 消滅ス既ニ其消滅ノ原因ヲ生スルトキハ既往ニ遡リ公訴ハ消滅ニ
 屬スルモノナレハ原判決ハ成立スルコトヲ得ス(判旨第二點)

官吏侮辱及誹毀ノ件

明治二十六年刑第三百九十八號
明治二十六年五月八日宣告

第一審

東京地方裁判所

第二審

東京控訴院

被

告

太田久太郎
志毛井確太郎

辯護人

三崎龜之助
山浦橋馬

右官吏侮辱及誹毀被告事件ニ付明治廿六年三月十七日東京控訴院ニ

公訴ノ提起ナキ事件ノ處斷○誹毀罪告訴ノ拋棄

於テ東京地方裁判所ノ判決ニ對スル被告等ノ控訴ヲ審理ノ末第一ノ記事ハ官吏侮辱トナラサルヲ以テ無罪第二ノ記事ニ對シテハ刑法第三百五十八條第二ヲ適用シ犯情輕キヲ以テ同條ノ刑期範圍内ニ於テ最短期ノ重禁錮最少額ノ罰金ニ處スヘキモノトス然ルニ原裁判所カ第一第二共ニ有罪ト認メ處斷シタルハ失當ナルヲ以テ之ヲ取消シ更ニ被告兩名ヲ各重禁錮十五日罰金五圓ニ處ス官吏侮辱ノ點ニ付テハ被告兩名ヲ無罪トスト言渡シタリ

被告兩名辯護人三崎龜之助山浦橘馬ハ右裁判ノ内誹毀事件ノ一部ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ第一本案誹毀事件ハ直江森之助大川金治ノ兩名ヨリ被告ノ一人ナル太田久太郎而已ニ對シ告訴ヲ爲シ從テ第一審檢事ニ於テモ太田久太郎而已ニ對シ公訴ヲ提起シ第一審裁判モ太田久太郎而已ニ對シ誹毀犯ナリトシテ數罪俱發ノ例ニ照シ有罪ノ判決ヲ爲シタルニ對シ久太郎ハ之ニ服セスシテ控訴シタ

ルモノナリ而シテ控訴院ニ於テモ別ニ立會檢事ヨリ附帶控訴ノ申立アリタルニアラス此事實ハ第一審判決原本直江森之助大川金治ノ告訴狀及ヒ一件記録中第一審第二審公廷檢事ノ陳述ニ依リ明カナルニ原裁判ハ公訴ノ提起ナキ志毛井確太郎ニ對シテモ同一ノ刑ヲ言渡シタルハ刑事訴訟法第二百六十九條第七號後段ニ該當セル不法ノ判決ナリ第二原院ノ認メタル事實ハ即チ黒田ト相共ニ提携シテ殊ニ直接ニ關係セリトノ嫌疑アルハ同法學生直江森之助大川金治等ニアリ云々トノ一節ニシテ直接ニ關係セリトノ文字ハ曠漠ニシテ其意ノ存スル所他人ノ得テ窺知スヘキ限ニアラサルノミナラス被告ノ意思タル決シテ右兩名カ買得シタリト云フニアラス然ルニ直ニ金錢ヲ以テ試驗問題ヲ買得シタリトノ理由ヲ以テ處斷シタルハ事實ニ副ハサル理由ニシテ即チ刑事訴訟法第二百六十九條第九號後段ナル理由ノ齟齬ナリ第三(一)誹毀犯ノ構成上人ノ名譽ヲ害スルノ意思ハ一要素トシテ

欠ク可ラサルハ敢テ詳論ヲ要セス然ルニ原院ハ告訴人直江森之助大川金治ヲ中傷スルノ目的ニ出テ、之ヲ掲載シタルニアラサルハ記事ヲ通讀シテ知ルヘシト即チ害意ナキヲ認メナカラ刑法第三百五十八條第二ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリ(二)刑法第三百五十八條第二ニ問擬センニハ其摘發シタル事實ハ惡事ナラサレハ醜行ナラサル可ラス然ルニ原院ノ認メテ以テ誹毀ト爲シタル事實ハ惡事ナラス又醜行ナラス唯僅ニ良心ニ對シ耻ツヘキノ行爲ト云フニ過キス人ニ依リ其感覺ヲ異ニスル内部ノ良心ニ於テ耻ツヘキト云フカ如キ些末ノ行爲ハ以テ本條ノ醜行ナリト爲スヘカラス是レ擬律ノ錯誤ナリ以上ノ理由ナルヲ以テ原判決中誹毀ニ關スル一部ハ破毀セラレンコトヲ求ムト云フニ在リ

對手人原院檢察長野村維章ハ上告第一點志毛井確太郎ニ對シテハ上告ノ原由アルモ被告久太郎ニ對シテハ其原由ナキ旨答辯セリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士三崎龜之助カ上告趣旨ノ辯明及ヒ立會檢察野崎啓造ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

上告第一點ニ付キ訴訟記録ヲ查閱スルニ本案誹毀事件ニ付テハ被告太田久太郎ニ對シテハ檢事ヨリ公訴ノ提起アリタルモ志毛井確太郎ニ對シテハ公訴ヲ起シタルコトナシ故ニ第一審判決ハ久太郎ノミニ誹毀ノ罪アリトシ刑法第三百五十八條第二號ヲ適用シテ處斷シタリ然ルニ第二審判決ハ確太郎ニモ誹毀ノ罪アリトシ之ヲ重禁錮十五日罰金五圓ニ處シタルハ法律ニ背キ受理スヘカラサル事件ヲ受理審判シタル不法ノ裁判ニシテ上告ハ其理由アリトス又々刑法第三百五十八條ノ誹毀罪ハ被害者ノ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論スヘキモノタリ而シテ被告久太郎ニ付テハ第二審判決後被害者タル直江森之助大川金治ヨリ告訴取消願ヲ差出シタレハ即チ刑事訴訟法第六條第二號ニ掲擧セ

ル告訴ノ拋棄アリタルモノニシテ公訴ハ之ニ因リテ消滅スヘキナリ
既ニ其消滅ノ原由ヲ生スルトキハ既往ニ遡リ公訴ハ消滅ニ屬シタル
モノナレハ原判決ハ成立スルコトヲ得ス以上ノ點ニ於テ原判決ヲ破
毀スヘキノ原由アルヲ以テ他ノ上告論旨ニ對シ一々説明ヲ爲スノ必
要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀
シ本院ニ於テ判決スル左ノ如シ

右

志毛井確太郎

右確太郎ニ對シ明治二十六年三月十七日東京控訴院ノ言渡シタル
判決ヲ破毀シ之ヲ取消ス

右

太田久太郎

右久太郎ニ對スル誹毀事件ノ公訴ハ消滅シタルヲ以テ明治二十六
年三月十七日東京控訴院ノ言渡タル判決ノ全部ヲ破毀シ之ヲ取消
ス

○判決要旨

甲者カ乙者ノ丙者ニ硫酸ヲ注キ掛ケテ創傷ヲ成サシメントスルノ
情ヲ知リ硫酸買取ニ要スル書面ヲ作爲シテ乙者ニ渡シタルハ乙者
ハ之ニ因テ硫酸一ポンドヲ買取シテ犯罪ヲ遂ケタルトキハ甲者ハ
從犯ヲ以テ論スヘキモノナリ刑一〇（判旨第一點）
刑九條

沒收ノ法條ヲ舉示セスシテ犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收シタル
ハ不法タルヲ免レス刑三條（判旨第二點）
刑四條

醫師ノ診斷書ハ豫審判事ニ於テ別ニ鑑定ヲ命シタルモノニ非レハ
宣誓ヲ爲スヘキ道理ナシ而シテ豫審判事ノ命ニ非スシテ醫師若ク

ハ私立醫院ノ名稱ヲ以テ作りタル診斷書ハ裁判上直チニ之ヲ無効トシテ心證ノ資料ニモ供ス可ラストノ法條法理ナケレハ之ヲ採用スルモ違法ナリト論スルヲ得ス(判旨第三點)

毆打創傷ノ件

明治二十六年刑第三百八十九號
明治二十六年五月十一日宣告

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告 五十嵐九十郎

辯護人

花井卓藏
下部喜太郎

日置佐三郎

明治二十六年三月二十三日東京控訴院ニ於テ右五十嵐九十郎カ毆打創傷被告事件ニ付東京地方裁判所ノ判決ニ對スル控訴ヲ審理シ被告九十郎ハ根岸丹次郎ヲ幫助シ同人カ橋本近ニ硫酸ヲ注キ掛ケ其左顔其他耳朶及側頸部ニ創傷ヲ成シ爲メニ二十日以上ノ時間疾病ニ罹ラシメタル犯罪ヲ容易ナラシメタルモノニ付刑法第三百七條第三百二條第三百一條一項第九條ヲ適用シ處斷スヘキモノナリ故ニ第一審判決ハ失當ノ廉アルヲ以テ刑事訴訟法第二百六十一條ニ從ヒ原判決ヲ取消シ更ニ前掲事實ト法律トニ依リ被告九十郎ヲ重禁錮二年三月ニ處スト言渡シタル第二審判決ヲ不當ナリトシ被告人ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原院ノ認ムル事實ニ依レハ被告ハ根岸丹次郎カ橋本近ニ硫酸ヲ注キ懸クルノ情ヲ知テ硫酸買入レノ爲メニ用フル書付ヲ與ヘタリト云フニ過キス硫酸買入ノ書付ヲ與ヘタルハ硫酸買入ノ豫備タルヘキモ右丹次郎カ罪ヲ犯スノ豫備ノ所爲ニアラサルコトハ明カナリ然ラハ法律上從犯トシテ處分スヘキモノハ正犯カ罪ヲ犯スノ情ヲ知り豫備ノ所爲ヲ以テ之ヲ幫助シタルモノ、ミニシテ從犯ノ從犯即チ豫備ノ豫備ハ認メサル所ナルニ從犯トシテ處分シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ況ヤ一件記録中被告人カ根岸丹次郎ニ硫酸買入ノ書付ヲ與フル際犯罪ノ情ヲ知りタリト認ムヘキ證據ノ存スルナク唯タ情況ノ疑フヘキモノアルニ過キササルヲ故ニ百歩ヲ讓リ硫酸買入ノ書付ヲ與ヘタルコトノミヲ以テ硫酸ヲ注キ懸ケタル犯罪ノ從犯トシテ

處分スルコトヲ得ヘキモノトスルモ罪ヲ犯スノ情ヲ知リタリトノ證
 據ナキヲ以テ從犯トシテ罰スルコトヲ得サルモノナルニ一片ノ推測
 ヲ以テ罪ヲ犯スノ情ヲ知リタリト認定シタルハ刑法第九條ノ規定
 ヲ誤解シタル不法ノ裁判ナリト云フニアリ對手人原控訴院檢察長野
 村維章ハ上告ハ其理由ナシトノ答辯書ヲ差出シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シタル處被告辯
 護士花井卓藏ハ上告趣旨ヲ擴張シタリ其要旨ハ第一原判決主文中犯
 罪ノ用ニ供シタル硝子壘壹個ハ之ヲ沒收スト掲ケアルモ判文ノ理由
 ヲ査閲スルニ硝子壘ノ犯罪ノ用ニ供シタル事實ヲ發見セス却テ犯罪
 ノ用ニ供シタル物件ハ硫酸其物ナルコトヲ認メアリ加之此點ニ關シ
 毫モ法律上ノ理由ヲ示サ、ルハ不法ノ裁判ナリ第二原判文ニ警察醫
 長田足穂同小島原泰民ノ各診斷書云々ニ徴シテ云々トアルモ一件記
 録中右兩人ヨリ差出セル檢斷書アルモ診斷書ナルモノナシ假リニ檢

斷書ヲ診斷書ト見做スモ右兩人ハ法律上相當ノ方式ニ基キ宣誓ヲ爲
 シタル事蹟ナシ抑モ病狀ノ診察ハ醫師ノ特有ニ屬スル學術上ノ意見
 ニシテ一種ノ鑑定ニ屬スルモノナレハ刑事訴訟法第三百三十七條ノ規
 定ニ從ヒ鑑定スヘキ旨ノ宣誓ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ原院カ直ニ
 兩名ノ檢斷書ヲ採テ斷罪ノ用ニ供シタルハ法則ヲ無視シタル違法ノ
 裁判ナリ第三原判文ニ順天堂ノ各診斷書云々トアルモ順天堂ハ或ル
 私立病院ノ名稱ニシテ一ノ建物ナリ法律上法人ト名クヘキモノニア
 ラサレハ病狀ヲ診案スルノ能力ナク又鑑定人タルノ能力モナキモノ
 ナリ加之順天堂醫員ノ氏名ヲ掲ケアラサルヲ以テ刑事訴訟法第三百
 十七條ノ法則ヲ履踐スヘキ責任者ヲ知ルニ由ナシ要スルニ一面ハ理
 由ノ不備ニシテ一面ハ法則ヲ無視シタル違法ノ裁判ナリ第四豫審判
 事西川漸ノ作りタル檢證調書ハ出張先ニ係ルヲ以テ官署ノ印ヲ用ユ
 ルコトヲ得サルハ勿論ナレトモ判事自ラノ署名捺印ナカルヘカラス

然ルニ其捺印ナキ無効ノ調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ背法ノ裁判ナリ第五原判文ニ押収ノ硫酸云々トアレトモ是等押収物件ニ對シ更ニ何等ノ言渡ナク又公訴々訟費用ニ關シ何等ノ判決ナキハ共ニ法則ヲ適用セサル不當ノ裁判ナリ第六原院公判始末書ヲ閱スルニ裁判長ニ於テ被告ニ對シ利益トナルヘキ證據ヲ差出スコトヲ得ヘキ旨ノ告知ヲナシ又證據物件ヲ示シタルモ辯解セシメタルノ記載アルコトナシ共ニ法則ヲ適用セサル不當ノ裁判ト論述シ同代理人大島寛司ハ被告カ根岸丹次郎ヨリ硫酸買取ニ關スル書面作製ノ依頼ヲ受ケタルハ明治二十四年十二月十一日ニシテ當時ニ在テハ毫モ罪ヲ犯スノ事實ヲ知ラス其之ヲ知リシハ同月十三日ナレハ罪ヲ犯スノ情ヲ知リテ豫備ヲ與ヘタルニアラス然ルニ原判決上被告カ犯罪ノ事實ヲ知ラサル當時ニ遡リ丹次郎ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタルカ如ク認めアルハ不法ノ裁判ナリト擴張論辯シタリ仍ホ同辯護士ト部喜太郎日置佐

三郎ノ陳述及立會檢事川日亨一ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

上告論旨ニ付原判文ヲ檢スルニ被告九十郎ハ根岸丹次部カ橋本近等ニ硫酸ヲ注キ掛ケントスルノ情ヲ知テ硫酸買取ニ要スル書面ヲ作爲シ其翌日丹次郎九十郎ハ共ニ上野順造方ニ至リ右書面ヲ渡シ硫酸一ポンドヲ買取リ云々トアリテ丹次郎カ犯罪ノ情ヲ知テ豫備ノ所爲ヲ以テ之ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル事實明瞭ナレハ刑法第百九條ヲ適用シ從犯ト爲シ處斷シタルハ相當ニシテ錯誤ノ點アルコトナシ辯護士花井卓藏カ擴張第一前段論旨ハ原判文ニ新聞紙ニ包ミ持居リタル壘ヲ取出シ其硫酸ヲ橋本近ニ注キ掛ケ云々トアリテ其壘ノ犯罪ノ用ニ供シタル物件タルヤ明白ナリ其後段沒收ノ法條ヲ舉示セサルトノ論旨ハ正當ニシテ錯誤ノ裁判タルヲ免カレス其第二第三論旨ニ付訴訟記録ヲ檢スルニ長田足穂小島原泰民ノ檢斷書順天堂ノ診斷

判旨第二點

判旨第一點

書ナルモノハ豫審判事ニ於テ別ニ鑑定ヲ命シタルモノニ非サレハ素ヨリ宣誓ヲ爲スヘキ道理ナク而シテ豫審判事ノ命ニ非スシテ作リタル醫師ノ診断書及ヒ私立病院ノ名稱ヲ以テ作リタル診断書ハ裁判上直チニ之ヲ無効トシテ心證ノ資料ニモ採用ス可ラスト論ス可キ法條法理ナシ然レハ宣誓ヲ爲サス又ハ順天堂醫員ノ氏名ヲ記載セサル書類ヲ採用セシヲ違法ナリトノ論旨ハ要スルニ證憑取捨ノ當否ヲ非難スルニ過キス其第四豫審判事ノ檢證調書ハ判事ノ捺印ナキモノナルニ之ヲ證憑ト爲シタルハ不法ナリト云フモ原判文證憑ノ部ニ豫審判事ノ臨檢調書トアリテ其檢證調書ヲ證憑ト爲シタルニ非ス而シテ臨檢調書ナルモノハ毫モ法規ニ違背シタルノ點アルコトナシ其第五押收物件及ヒ訴訟費用ニ付言渡ナキヲ不法ナリト云フモ是等ノ處分ハ刑ノ言渡ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非サルヲ以テ必スシモ同時ニ其言渡ヲ爲スヲ要セサルモノナレハ其言渡ナキヲ以テ上告ノ理由ト爲

判旨第三點

スコトヲ得ス其第六論旨ニ付公判始末書ヲ檢スルニ裁判長ハ被告ニ對シ反對ノ證憑アルヤヲ問フ被告ハ別ニ反對證ナキ旨ヲ答フトアリ又證據物件ヲ示シ訊問ヲ爲シタル事蹟モ明記シアル所ニシテ違法ノ點ナシ又代言人大島寬司ノ擴張論旨アルモ被告カ硫酸買取ニ付書面作製ノ依頼ヲ受ケタル際已ニ犯罪ノ情ヲ知リタル事實ハ原判文ニ明記スル所ニシテ毫モ不法ノ點アルニ非ス依テ擴張第一後段論旨ヲ除クノ外上告趣意總テ相立タス

右ノ理由ナルニ因リ原判決ノ沒收ノ法條ヲ舉示セサルハ擬律ノ錯誤ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ其一部ニ付本院ニ於テ直チニ左ノ言渡ヲ爲シ其餘ノ上告論點ハ不當ナルヲ以テ同第二百八十五條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

五十嵐九十郎

犯罪ノ用ニ供シタル硝子壘一個ハ刑法第四十三條ニ依リ之ヲ沒收

ス

○判決要旨

辯護人ノ上告申立ハ法定ノ期間内(三日)ナルモ既ニ被告人自ラ其前
 日上告申立ヲ爲シタルトキハ辯護人ノ資格ニ於テ獨立シテ再度申
 立ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ辯護人ノ申立ハ其効ナキモノトス故
 ニ此場合ニ在テ辯護人ノ上告申立ヲ爲シタル日ヨリ起算シテ被告
 ノ趣意書差出シノ日ハ未タ法定ノ期間(五日)ヲ經過セサルモノト爲
 スコトヲ得ス 刑訴二七一
 條二七三條

竊盜ノ件

明治二十六年刑第四百七十四號
 明治二十六年五月十一日宣告

第一審

新潟地方裁判所長岡支部

第二審

宮城控訴院

被

告

松井音之丞

辯護人

大場茂馬

右音之丞カ竊盜被告ニ付明治二十六年四月十三日宮城控訴院ニ於テ

大審院ヨリ移シタル新潟地方裁判所長岡支部ノ判決ニ對スル檢事ノ
 控訴ヲ審理シ被告ヲ有罪ト認メ其各所爲ハ何レモ刑法第三百六十八
 條第三百六十七條第三百七十六條再犯ナルヲ以テ同法第九十二條第
 九十八條ニ依リ六月以上五年以下ニ一等ヲ加ヘタル重禁錮六月以上
 二年以下ノ監視範圍内ニ於テ其刑ヲ定メ尙ホ第百條ニ依リ一ノ重キ
 ニ從ヒ處斷スヘク被害者ニ假下ノ贓品ハ刑法第四十八條ニ依リ處分
 スヘキモノトス故ニ原判決ハ不當ニシテ本案控訴ハ其理由アルヲ以
 テ刑事訴訟法第二百六十一條第二項ニ從ヒ原判決ノ全部ヲ取消シ更
 ニ前記ノ事實及ヒ法律ノ理由ニ依リ被告カ各罪ニ對シ各重禁錮三年
 監視一年ニ處シ第四ノ罪ヲ重トシ其刑ノ執行ヲ受ケシム但各被害者
 へ假下ノ贓品ハ其マ、還付スト言渡シタル第二審判決ニ服セス被告
 音之丞ハ明治二十六年四月十五日上告申立ヲ爲シ辯護人大場茂馬ハ
 明治二十六年四月十六日上告申立ヲ爲シタリ而シテ被告音之丞ハ明

辯護人獨立ノ上告申立

治二十六年四月二十一日上告趣意書ヲ差出シ辯護人大場茂馬ハ上告趣意書ヲ差出タサス明治二十六年四月二十七日ヲ以テ上告趣意擴張書ヲ差出シタリ被告音之丞カ上告ノ要旨ハ被告ハ竊盜ヲ爲シタル事實ナキヲ以テ新潟地方裁判所長岡支部ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケタリ然ルニ宮城控訴院ニ於テ有罪トシテ處刑ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ判決ニ付破毀ヲ求ムト云ニ在リ辯護人大場茂馬カ上告趣意擴張書ノ要旨ハ第一原院カ採用セラレタル證據ニ依リテ考フルトキハ被告カ本案被害物件ヲ所持セリトノ形跡毫モ見ル能ハサレハ判決ニ明記スル如キ所爲ヲ以テ物品ヲ竊取シタリト認ムヘキ證左ナシ然ルニ是等ノ所爲アリト認ムルハ非常ノ事タリ此非常ノ事ナルニ拘ハラス其理由ヲ示サ、ルハ違法ノ裁判ナリ第二證據ノ取捨ハ事實裁判官ノ職權内ニアリト雖モ其明示セラレタル證據ニ依リテハ判文ニ記載セ

ル如キ事實ヲ認定スル能ハス果シテ然ラハ其事實認定ハ他ノ明示セ

ザル證據ニ依ラサレハ到底見ルゴト能ハス他ノ證據ニ依リテ判文記載ノ事實ヲ認定シタリトセンカ是レ不法ノ裁判ナリト云ニアリ

相手方原控訴院檢察長犬塚盛巍ハ被告ノ提出シタル上告趣意書ハ既に法定期間ヲ經過シタル無効ノモノナリ又辯護人ノ上告ハ獨立シテ爲スヘキモノニ非サルヲ以テ被告人ニ於テ先キニ上告申立タル以上ハ其後ニ爲シタル辯護人ノ上告ハ當然無効ノモノト謂ハサルヲ得ス況ヤ辯護人ノ上告モ單ニ申立ノミニシテ其趣意書ヲ提供セサルニ於テヤ依テ本案上告ハ過ニ却下アラシコトヲ望ム旨答辯セリ大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

凡ソ上告ハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ判決言渡アリタル日ヨリ三日内ニ其申立書ヲ原裁判所ニ差出シ且其申立ヲ爲シタル日ヨリ五日内趣意書ヲ差出スヲ以テ成立スルモノトス然ルニ本案原判決言渡ハ明治

二十六年四月十三日ニアリテ被告ノ上告申立ハ四月十五日ナルヲ以テ法定ノ期間内ナリト雖モ其趣意書ハ四月二十一日差出シタルニ依リ既ニ法定ノ期間ヲ經過シタルモノナリ又辯護人ノ上告申立ハ四月十六日ニシテ法定ノ期間内ナルモ既ニ被告ニ於テ其前日上告申立ヲ爲シタル上ハ辯護人ノ資格ニ於テ獨立シテ申立ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ此申立ハ其効ナキモノナリ良シヤ辯護人カ被告ニ代リ上告申立ヲ爲シタルモノトスルモ被告ニ於テ再度上告申立ヲ爲スノ理由ナケレハ前ニ申立アル上ハ後ノ申立ハ無用ノモノタルヲ免カレス故ニ辯護人ノ上告申立ヲ爲シタル日ヨリ起算シテ被告ノ趣意書差出シノ日ハ未タ法定ノ期間ヲ經過セサルモノト爲スコトヲ得ス然ラハ則チ上告趣旨ノ如何ナルヲ問ハス本案被告及ヒ辯護人ノ上告ハ共ニ成立セサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ共ニ之ヲ棄却ス

○判決要旨

刑法第八十六條第二項ノ謂ハユル偽造ノ器械トハ貨幣偽造ニ直接必要ナル器械ヲ指スモノニテ其器械ヲ製造スルノ器具等ヲ指スニアラス故ニ石版印肉及ヒ彫刻針等ヲ購求スルニ止ルモノハ紙幣偽造ニ直接ノ器械ヲ豫備シタリト云フヲ得ス

紙幣偽造器械豫備ノ件

明治二十六年刑第三百八十六號
明治二十六年五月十五日宣告

第一審 大津地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被 告 佐野仲彌 辯護人 平松福三郎
外七名

右仲彌外七名カ紙幣偽造器械豫備被告事件ノ控訴ニ付明治二十六年三月八日大阪控訴院ニ於テ審理ノ未被告等ノ所爲ハ硝子紙へ紙幣ノ兩面ヲ寫シタルニ止リ未タ銅石版等ニ彫刻セシモノニアラサレハ刑

法第八十六條第二項ノ罪ヲ組織セサルヲ以テ刑事訴訟法第二百五十八條第二百三十六條第二百二十四條ニ從ヒ無罪ヲ言渡シ押收ニ係ル書類物件ハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ各差出人ニ還付スヘキモノトス然ルニ第一審裁判所ニ於テ右ノ所爲ニ對シ刑法第八十六條第二項第八十四條第八十二條ヲ適用シ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ失當ノ判決ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百六十一條末項ニ則リ原判決ヲ取消シ更ニ各被告ヲ無罪トス但押收ニ係ル書類物件ハ各差出人ニ還付スト言渡シタリ

原控訴院檢察長林誠一ハ右ノ判決ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲スノ要領ハ抑モ被告仲彌等カ日本銀行發行ノ兌換紙幣ヲ偽造セントスルノ意思アルヤ該判決ニ於テ認メタル如ク又其同謀者ヲ得技術者ヲ傭入レタルコトモ該判決ノ認ムル處ナリ而テ之カ爲メ資本ヲ供出シ器械及ヒ用紙ヲ購入シ又硝子紙ヲ用ヒ日本銀行ノ五圓兌換紙幣ノ表裏兩面

ヲ寫シタルノ顛末モ該判決ノ詳細ニ記述スル所ニシテ更ニ之ヲ指摘スルヲ要セサル所ナリ而テ末段ニ至リ「其事實明ナリト雖モ右ハ硝子紙へ紙幣ノ兩面ヲ寫シタルニ止リ未タ銅石版等ニ彫刻セシモノニアラサレハ刑法第八十六條第二項ノ罪ヲ組成セス」トナシ以テ無罪ヲ言渡シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル裁判ナリトス刑法第八十六條第二項ヲ案スルニ「若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ著手セサル者云々」トアリ是レ其未タ偽造ニ著手セサルモ其間髪ヲ容レサルヲ以テ危険ナリトシ處罰スルノ精神ニシテ他ノ刑罰的行爲ト大ニ異ナル所ナリ今若シ紙幣偽造ノ意思アルモ其行爲尙ホ普通印刷業ニ必要ナル器具物品ヲ準備スルニ止マルモノナランニハ或ハ以テ偽造器械ノ豫備トハ云フヘカラスト雖モ本案ノ如キ已ニ紙幣ノ模型ヲ調製シ石版、印肉、彫刻針及ヒ用紙ヲ具備スル場合ニ至テハ是其特質ヲ表スルモノ假令未タ銅石版等ニ彫刻セスト雖モ偽造著手ニ近接シ實ニ其間髪ヲ容レ

サルモノアリト云ハサルヘカラス豈之ヲ偽造器械ノ豫備ナキモノト云フヲ得ンヤ以上ノ次第ナルヲ以テ原判決ノ破毀ヲ求ムト云フニ在

リ
相手方被告仲彌外六名ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辯駁シテ其効ナシト答辯シタルモ被告與吉ハ之レニ答辯セス

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ立會檢事應當融ノ意見及ヒ辯護士平松福三郎カ答辯ヲ聽キ之ヲ審案スルニ刑法第八十六條第二項ニ所謂ノ偽造器械ハ貨幣偽造ニ直接必要ナル器械ヲ指スモノニシテ其器械ヲ製造スルノ器具等ヲ指スモノニアラス本件上告ニ因リ原判文ヲ査閱スルニ其認定ノ事實ニ依レハ被告等ハ硝子紙ヲ用ヒ日本銀行ノ發行ニ係ル五圓兌換紙幣ノ表裏兩面ヲ寫シ尙ホ其前後ニアリテ石版印肉及ヒ彫刻針等ヲ購求シタルニ止マルヲ以テ紙幣偽造ニ直接ノ器械ヲ豫備シタル者ト云フヲ得ス故ニ原院カ刑法第八十六條第二項ノ罪ヲ組成セサルモノトシ無罪ヲ言渡シタルハ其當ヲ得タルモノトス因テ上告ノ旨趣ハ相立タス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本案上告ハ之レヲ棄却ス

●判決要旨

刑事訴訟法第二百六十二條ハ不當ニ管轄違ヲ言渡シタルトキノ處分法ニシテ控訴ヲ理由アリトシテ原判決ヲ取消スノ場合ニ適用スヘキ法條ニ非ス

詐欺取財ノ件

明治二十六年刑第四百二十四號
明治二十六年五月十五日宣告

第一審 横濱地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告 笠松好造 辯護人 白井勝悟

明治二十六年四月四日東京控訴院ニ於テ右笠松好造カ詐欺取財被告

原裁判取消

事件ニ付横濱地方裁判所ノ判決ニ對スル控訴ヲ審理シ被告ハ清水泰助ヲ欺罔シ黄金地藏尊像ヲ騙取シタル所爲アリト判定シ之ヲ法律ニ照スニ刑法第三百九十條第三百九十四條ニ依リ處斷スヘキ犯罪ナリトス然ルニ原裁判ハ失當ノ廉アルヲ以テ刑事訴訟法第二百六十二條後段ノ規定ニ從ヒ原判決ヲ取消シ更ニ前掲事實ト法律トニ依リ被告人ヲ重禁錮一年六月ニ處シ罰金十五圓監視六月ヲ附加ス公訴費用ハ被告ノ負擔トス押收ノ證書々類ハ被告人及清水泰助外一名其他各差出人ニ還付スト言渡シタル第二審判決ヲ不當ナリトシ被告人ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原判文ニ泰助カ同月二十日歸京スルニ際シ之ヲ持還ラント云ヒシニ被告ハ云々自ラ預リ證ヲ作り之ヲ泰助ニ交付シ云々トアリテ約言スレハ被告カ預リ證ヲ泰助ニ交付シ歸京セシメタルハ騙取ノ所爲ナリトセラレタルモ該證ハ互ニ承諾上ノ授受ニシテ其文詞ニ地藏尊像一體右來ル八月中正ニ預リ置候也トアレハ期限中

ハ該物件ニ付被告ハ占有ノ權利アルコト明カナレハ其期限經過後ニ至リ督促ヲ受クルモ返還ヲ拒ミタル等ノ事アルトキハ格別ナルモ本案ノ如ク未タ期限内ニ在テ返付セサリシトテ之ヲ騙取ナリト云フヲ得ス要スルニ民事上ノ爭訟ニ歸スヘキモ刑事上ノ制裁ヲ受クヘキモノナラサルニ詐欺取財ナリトセラレタルハ擬律錯誤ノ判決ナリト云フニアリ對手人原控訴院檢察長野村維章ハ上告適法ノ理由ナキ旨答辯書ヲ差出シタリ
被告辯護士白井勝悟ハ上告趣意擴張書ヲ差出シタリ其要旨ハ第一原院判文末尾ニ右ノ理由ナルヲ以テ本件ハ刑事訴訟法第二百六十二條後段ノ規定ニ從ヒ主文ノ如ク判決セリトアルモ同條ハ不當ニ管轄違ヲ言渡シタル際原裁判所ニ其事件ヲ差戻スヘキ事ヲ規定シタルモノナレハ本件ニ適用スヘキモノニアラス是擬律錯誤ノ裁判ナリ第二原院ハ被告ヨリ押收シタル舊實印其他四點ニ對シ何等ノ判決ヲ爲サ、

ルハ違法ノ裁判ナリト云フニアリ
 大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シタル處被告辯
 護士白井勝悟カ前掲上告趣意并上告擴張趣意書ノ旨趣ヲ辯明シ仍ホ
 擴張辯明シタル要旨ハ第一本案佛像ハ被告ニ於テハ之ヲ買受ケタリ
 ト主張シ被害者ハ預ケタルモノナリト主張セルモノナルニ此爭點即チ
 賣買ナリトノ點ニ對シ何等ノ判決ナキハ理由ヲ付セサル不法ノ裁判
 ナリ第二原院カ證人ト爲シタルモノ、中松岡元藏ハ戸長役場ノ廻答
 書神奈川縣監獄署ノ廻答書橫濱裁判所ノ書面等ニ依レハ重禁錮一月
 ニ處セラレタルモノニテ刑事訴訟法第二百二十四條第五號ニ該當シ證
 人ノ資格ナキモノナルニ之ヲ證人ト掲ケタルハ違法ノ裁判ナリト云
 フニアリ因テ立會檢事應當融ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ
 上告趣意擴張書第一論旨ニ付原判文ヲ檢スルニ其主文ニ原判決ハ之
 ヲ取消ス云々トアリ其末段ニ刑事訴訟法第二百六十二條後段ノ規
 定ニ從ヒ主文ノ如ク判決セリトアルモ同條ハ不當ニ管轄違ヲ言渡シ
 タルトキノ處分法ニシテ本案事件ノ如キ控訴ヲ理由アリトシ原判決
 ヲ取消ス場合ニ適用スヘキ法條ニ非ス即チ法則ヲ不當ニ適用シタル
 違法ノ判決ナリトス既ニ此點ニ付破毀ノ原由アリト認メタルヲ以テ
 其餘ノ上告趣意及ヒ擴張論旨ニ對シ一々説明ヲ與フルヲ要セサルナ
 リ
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ノ全部
 ヲ破毀シ本案被告事件ヲ名古屋控訴院ニ移シ更ニ審判セシムルモノ
 ナリ。

○判決要旨

第一審裁判所檢事ノ控訴アリタル場合ト雖モ控訴裁判所檢事ハ其
 相手方ニアラサルモ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ刑訴二五
九條二項

委託物費消ノ件

明治二十六年刑第四百七十五號
明治二十六年五月二十二日宣告

第一審 京都地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告

小倉富之助

右委託物費消事件ニ付明治二十六年四月十五日大阪控訴院ニ於テ京都地方裁判所ノ判決ニ對スル第一審裁判所檢事ノ控訴ヲ受理シ被告ノ所爲ハ刑法第三百九十五條前段ニ據リ處斷スヘキモノトス然ルニ原裁判所カ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ失當ナルヲ以テ之ヲ取消シ前記法條ニ照シ更ニ被告ヲ重禁錮一月ニ處ス但當院檢事カ附帶ノ控訴ヲ爲スヘシト云ヒ論述セシ者ハ本件ハ原檢事ノ控訴ニ係リ對手人ニアラサレハ附帶控訴トシテハ爲スヘカラサル者ニシテ主タル控訴ノ趣旨ヲ擴充スルニ過キサル者ト見做スヲ以テ此點ニ就テハ説明ヲ與ヘスト言渡シタリ

原院檢事長林誠一ハ右裁判ヲ不當ナリトシテ上告ヲ爲シタリ其要旨

ハ本件ハ京都地方裁判所檢事カ委託物費消トシテ起訴シタルニ證據充分ナラストシ無罪ノ宣告アリシヲ以テ之ヲ不當トシ原院ニ控訴シタルモノニ係ル然ルニ原院檢事ハ委託物費消ノ事實明カナルノミナラス尙ホ事ヲ構ヘ種々ノ詐言ヲ爲シタルコト判然ナルヲ以テ其論明ヲ爲シテ附帶ノ控訴ヲ爲シ刑法第三百九十五條末段第三百九十條第三百九十四條ニ依リ處斷スヘキモノナリト論結セリ然ルニ原院ハ第一審廳檢事ノ控訴アリタル場合ニハ第二審廳檢事ハ對手人ニアラサルヲ以テ附帶控訴ヲ爲スノ權ナシトシテ右附帶控訴ニ對シテ相當ノ裁判ヲ爲サ、リシハ不當ノ裁判ナリト云フニ在リ

被告ハ答辯書ヲ差出サス

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

刑事訴訟法第二百五十九條ヲ審案スルニ第二項ニ控訴裁判所ノ檢事

モ亦タ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得トアルハ其第一項ニ掲クル如ク控訴ノ相手方ニ附帶控訴ヲ爲スコトヲ許スノミナラス相手方ニアラサル控訴裁判所ノ檢事ニモ此上訴ヲ許シタルモノナリ故ニ第一審裁判所檢事ノ控訴アリタル場合ト雖モ控訴裁判所檢事ハ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ若シ此上訴ヲ許スハ被告ヨリ控訴ヲ起シ相手方タルトキノミニ限ルトセハ本條第二項ノ規定ハ其必要ヲ見サルヘシ何トナレハ第二審裁判ニ於テ被告ノ控訴ヲ受理シタル以後其裁判所檢事ハ即チ相手方ナルヲ以テ第一項ニ依リ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ヘケレハナリ依テ第二項ハ第一審裁判所檢事ノ控訴アリタルトキト雖モ控訴裁判所檢事ハ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ルモノト解セサルヘカラス然ルニ原院ハ其判文ニ當院檢事カ附帶控訴ヲ爲スヘシト云ヒ論述セシモノハ本件ハ原檢事ノ控訴ニ係リ對手人ニアラサレハ附帶控訴トシテハ爲スヘカラサルモノ云々ト掲ケ判決ヲ與ヘサリシハ法律ノ解釋ヲ誤リ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ與ヘサリシ不當ノ裁判ニシテ上告ハ其理由アリトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決公訴ニ係ル部分ヲ破毀シ之ヲ名古屋控訴院ニ移スモノナリ

○判決要旨

公訴附帶ノ私訴ニ付テハ刑事訴訟法中特ニ規定アル場合ノ外ハ民事訴訟法ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス故ニ刑事訴訟法第二百七十一條ニ規定シタル期間内ニ上告申立書ヲ差出サ、ルトキ民事訴訟法第五十條ヲ適用シ權利關係カ合一ニ確定スヘキモノナルヲ以テ上告期間ヲ懈怠シタル者ハ仍ホ懈怠セサル者ニ代理ヲ任シタルモノト看做スト云フヲ得ヌ(判旨第一點)

堤防決潰ノ件

明治二十六年刑第三百五十三號
 明治二十六年五月二十五日宣告

公訴附帶ノ私訴

原裁判所 東京控訴院

上告人	私訴原告人	大竹龜吉	訴訟代理人	神原經武
		外四十二名		岡村輝彦
被上告人	私訴被告人	横田進造	訴訟代理人	黒須龍太郎
		外二十四名		角田眞平

右當事者間ノ堤防決潰被告事件ノ公訴ニ附帶スル私訴判決ニ對シ民事被告人ヨリ控訴ヲ爲シタルニ付明治二十六年三月七日東京控訴院ニ於テ本件要償ノ原因ニ付テ之ヲ審案スルニ神宮巡查ノ上申書逮捕告發調書及檢事ノ檢證調書ニ依レハ控訴人カ堤塘ト稱スル場所ニ多少破壊ノ事實アルコトヲ知ルヘシ然レトモ逮捕告發調書ニハ當時百名許ノ者カ現場ニ押掛ケタル旨ノ記載アレハ被控訴人等ニ決潰ノ所爲アリトスルニハ特ニ其證明ナカルヘカラス須田久五郎ノ警察調書ニハ同人カ各被告ハ堤塘ヲ破壊スルコトニ談決セシ旨ノ申立ヲ記載スレトモ從來被控訴人等ハ論所ヲ堤塘ト認メサルコト小林巡查ノ上申書ニ見ヘタリ故ニ久五郎カ論所ヲ指シテ堤塘ナリト云フヘキ道理アルコトナケレハ其所謂堤塘トハ横田進造ノ公判始末書ニアル如ク道路上ニ積ミタル置土ヲ指シタルモノト認メサルヲ得ス然ラハ久五郎ノ調書ヲ以テ堤塘決潰共謀ノ證トハナスヘカラス又被控訴人等ノ警察又ハ檢事調書ヲ見ルニ置土ヲ取除ケタリトハ申立タル者アレトモ堤塘若クハ道路ヲ毀損セシト自白セシ者ナシ而テ洪水ノ際控訴人等カ新タニ論所ニ置土シタルコトハ神宮巡查ノ上申書ニ記載アレハ其置土ヲ取除キタリトノ自認ハ依テ堤塘ヲ決潰シタリトノ推定ヲ來スヘキモノニアラス因テ被控訴人等カ共謀シテ堤防ヲ決潰シタリトノコトハ其事實ヲ認ムヘキ證憑ナキモノトス又押掛橋ノ堰板ヲ取拂ヒタリトノコトニ至テハ被控訴人中該橋ニ當ル愛宕橋下ニ施シアリタル板等ヲ取除キタリト申立ル者アリト雖モ其場所カ正當ノ堰ナリトハ之ヲ認メス控訴人ハ該橋ノ雙方ニ土手アリトノコトヲ以テ押掛橋ヲ堰所ナリト立證スルモ檢證調書ニ依レハ其土手ハ道路ナリヤ堤

橋ヲ堰所ナリト立證スルモ檢證調書ニ依レハ其土手ハ道路ナリヤ堤

公訴附帶ノ私訴

塘ナリヤヲ識別シ難キ現状ニシテ又其堤塘タルコトヲ證セントスル地圖ニ至テハ被控訴人カ公簿ニ非ストノ申立ニ對シ控訴人ハ之ヲ爭ハス且被控訴人ノ引證スル地圖ト牴牾スルヲ以テ到底論所ニ堤塘ノ在ルコトヲ認メ難シ斯克ノ如ク正當ノ堰所ト認メ難キ場所ニ控訴人カ板ヲ掛ケ水流ヲ防キタル爲メ被控訴人等ノ田地ニ害ヲ生スヘキ狀況ナリシコトハ小林巡查ノ上申書ニ記載アル通ナレハ被控訴人カ之ヲ取除キタルハ違法ノ所爲ニアラス隨テ其所爲ニ付キ損害賠償ノ責ヲ生スヘキモノニアラス右ノ理由ナルヲ以テ原裁判所カ控訴人ノ請求ヲ棄却セシハ相當ニシテ本件控訴ハ其理由ナキニ付刑事訴訟法第二百六十一條第一項ニ依リ棄却ス控訴ノ費用ハ控訴人ノ負擔タルヘシト言渡タリ

民事原告人秋葉豐中野忠右衛門ハ右ノ判決ヲ不當ナリトシ上告申立ヲ爲シ兩名外三十九名代理人榊原經武カ差出セル趣意書ノ要領第一
原院ハ上告人ノ堤塘ヲ決潰セラレタルコト及被上告人久五郎カ各被告人ト堤塘決潰ノ協議ヲナシタルコトヲ警察署ニ於テ自白シタル事實トヲ認メ乍ラ僅ニ小林巡查ノ上申書中被上告人カ從來論所ヲ堤塘ト認メサルノ記載アリシコトヲ以テ被上告人久五郎カ論所ヲ指シテ堤塘ナリト云フヘキ道理ナシト判定セラレタルハ不法ナリ何トナレハ小林巡查ノ上申書中ニ如何ナルコトヲ記載アルモ被上告人久五郎カ堤塘決潰ノ協議ヲナシタルコトノ自白ナキモノト推定シ得ヘキ道理アラサレハナリ況ヤ該巡查ノ上申書ハ其職務上網戸人民ノ說諭願ニ對シ取扱ノ顛末ヲ署長上村隆儀ニ上申シタルニ過キスシテ論所ニ付キ堤塘ナルヤ否ヤヲ調査シタルモノニアラサレハ久五郎ノ自白ヲ取消スノ價值ナキニ於テオヤ
第二原院カ所謂堤塘トハ横田進造ノ公判始末書ニアル如ク道路上ニ積ミタル置土ヲ指シタルモノト認メサルヲ得スト説明セラレタルハ

不法ナリ何トナレハ上告人カ原院ニ於テ立證シタル證據ニ於テ被上告人カ堤塘ヲ決潰シタル事實ハ最モ明白ナルニ是等ノ立證ニ對シテハ何等ノ説明モ與ヘス却テ斯クノ如ク事實ヲ構造シ判決ノ材料ニ供セラレタレハナリ

第三被控訴人等ノ警察又ハ檢事調書ヲ見ルニ堤塘若クハ道路ヲ毀損セシト自白セシモノナシト説明セラレタリ然ルニ被上告人荒川忠四郎大久保喜代次ノ警察署調書其他各被上告人カ警察調書等ニ依レハ其問答ニ於テ被上告人等カ堤塘ヲ決潰シタルコトヲ自認シタルノ事實明カナルニ原院ハ是等ノ立證ニ對シ何等ノ説明ヲ與ヘス却テ堤塘若クハ道路ヲ毀損セシ自白ナシト構造ノ事實ヲ説明シタルハ證據ニ據ラサル違法ノ判決ナリ

第四押掛橋ノ堰所ノ板ヲ取拂タリトノコトニ至テハ云々控訴人ハ該橋ノ雙方ニ土手アリトノコトヲ以テヲツカケ橋ハ堰所ナリト立證スルモ檢證調書ニ依レハ其土手ハ道路ナリヤ堤塘ナリヤヲ識別シ難キ狀況ニシテ又其堤塘タルコトヲ證スル地圖ニ至ツテハ被控訴人ノ公簿ニアラストノ申立ニ對シテ控訴人ハ之ヲ争ハス且被控訴人ノ引證スル地圖ト牴牾スルヲ以テ到底論所ニ堤塘ノアルコトヲ認メ難シ云々ト説明セラレタルハ不法ナリ何トナレハヲツカケ橋ノ雙方ニ堤塘ノアリシコトハ上告人ノ立證中生良村ノ地租丈量改正圖並ニ切繪圖等ニ依テ明白ナレハナリ而テ地租丈量改正圖ニ付テ被上告人カ公簿ニアラストノ申立ニ對シテ争ハストノコトヲ以テ該地圖ヲ排斥セラレタルモ之ニ對シテハ上告人ハ該證ノ成立ヲ辯明シ村役人並ニ丈量擔當人等ノ記名調印アルコトヲ申立唯々單ニ目今生井村役場ニ非ルモノナルコトヲ認メタル迄ニテ敢テ公簿ニアラストノコトヲ上告人カ認メタルニアラス然ルニ原院ハ被控訴人カ公簿ニアラストノ申立ニ對シ控訴人カ之ヲ争ハスト説明セラレタルハ是亦構造ノ説明ニシテ

事實ニ添ハサル判定ナリ假ニ一步ヲ讓リ該地圖カ公簿ニアラストス
 ルモ該證ニ依リ論所ノ堤塘ナル事實ハ明白ナルヲ以テ唯公簿ニアラ
 ストノ理由ヲ以テ論所ハ堤塘ニアラスト云フヲ得サルナリ殊ニ上告
 人ハ生長ノ切繪圖面ヲ提出シテ論所ノ堤塘ナル事實ヲ立證シタルニ
 原院ハ此切繪圖ニ對シ何等ノ説明ナキハ違法ナリ且上告人ハ地租丈
 量繪圖面並ニ切繪圖ニ依リヲツカケ橋ノ堰ニ添テ與長川ニ流下スル
 惡水堀ノアリシ事實ヲ以テ押掛橋ノ堰ナルコトヲ立證シタルニ此立
 證ニ對シ何等説明ナキハ違法ナリ

第五巡查神宮弓之助ノ差出シタル堤防決潰ノ儀ニ付上申ト題スル書
 中高サ三尺斗リ長サ百間餘ナル堤塘十中七八ヲ決潰シ土管ヲ破毀ス
 ルニ至レリ云々トアリ又逮捕告發書ニ惡水堀ニ添フ高サ三尺餘長サ
 百間餘ナル堤塘ヲ亂擊破壞スルヲ以テ百方之ヲ制止スルモ固ヨリ多
 人數ノ集合ニシテ手廻リ兼テ遂ニ堤防十中七八ヲ破壞スルニ至レリ

而テ被告等ハ現行犯トシテ現場ヨリ引致セラレタルモノナリ如斯司
 法警察官等ノ作りタル證據アルニモ拘ハラス原院カ是等ノ證據ニ對
 シ何等ノ説明ヲモ與ヘサルハ審理不盡ナリト云フニ在リ
 相手方横田進造外二十四名ハ之レニ答辯書ヲ差出サス

秋葉豊外四十二名代理人岡村輝彦ハ擴張書ヲ差出シテ曰第一原院ハ
 本件ノ論所ニ破壞ノ事實アリシ事及ヒ之ヲ破壞セル事ハ被上告人等
 ノ所爲ナルコトヲ認メラレタリ而テ論所ヲ以テ上告人ハ堤塘ナリト
 稱シ被上告人ハ道路上ノ置土ナリト稱スルモノナレハ論所ハ果テ其
 孰レニ屬スヘキモノナリヤハ實ニ緊要ノ争點ナルニ此點ニ對シ何等
 説明ナキハ不法ナリトス何トナレハ若シ堤塘ナリトセハ被上告人等
 ハ犯罪者タラサルヲ得サレトモ若シ否ラストセハ單ニ民事上ノ責任
 ヲ負フニ過キサレハナリ假ニ數歩ヲ讓リ原院ハ論所ヲ道路ナリト認
 定シタルモノトスルモ何カ故ニ堤塘ニアラスシテ道路ナリヤノ理由

ニ至テハ毫モ見ルヘキモノナシ尙又假ニ論所ヲ以テ道路上ノ置土ニ過キストスルモ謂レナク之ヲ破壊シ爲メニ水害ヲ被ラシメタル已上ハ上告人ニハ之カ損害要償ノ原因アリト云ハサルヘカラス然ルニ原院ハ之ニ對シ毫モ説明ヲ與ヘサルハ理由不備ノ判決ナリ

第二原院ハ逮捕告發調書ヲ以テ一ノ證據トセラレタルコト明ナリ既ニ之ヲ證據トナシタリトセンカ原院ハ證據法ノ原理ニ反シ分ツヘカラサルノ事實ヲ分チ其一半ヲ採テ他ノ一半ヲ斥ケタルモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ該調書ニハ被上告人三門和三郎外廿名ヲ堤塘決潰現行犯トシテ引致セルコトヲ記載シアレハ右三門和三郎外二十名カ堤防決潰ノ所爲アリシコトハ論ヲ濼タサレハナリ然ルニ原院カ該調書ヲ採テ證據ト爲シ乍ラ其一半即チ百名許ノ者カ現場ニ押掛ケタル云々ノ一部ヲ採リ却テ他ノ一半即チ三門和三郎外廿名ヲ堤塘破壊現行犯トシ引致シタル云々ノ部分ヲ斥ケタルハ不法ニシテ是分ツヘカラサルノ自白ヲ分チタルト均ク其不法ナルコト喋々ヲ要セサルナリ尙又前述ノ如ク該調書中ニ現行犯トシテ引致セルコトヲ記載シアリ已上ハ堤防決潰ノ所爲アリシコト勿論ナルニ以テ苟モ反證ナキ限りハ被上告人等ニ決潰ノ所爲アリト推定スヘキハ當然ニシア豈特ニ之カ證明ヲ要センヤ然ルヲ原院ニ於テ決潰ノ所爲アリトスルニハ特ニ其證明ナカルヘカラスト判決シタルハ不法ナリ

第三ハ上告趣旨ノ第三點ヲ敷衍シ而テ事實ノ判定ハ事實裁判官ノ權内ニ屬スト雖モ證據トシテ採用シタル調書ニ記載アルモノヲ無シトスルカ如キハ其認定權ノ範圍ヲ脱シタルモノニシテ固ヨリ法律ノ許サ、ル所ナリ即チ原判決ハ法律ニ反シテ不當ニ事實ヲ確定シタルモノナリト云フニ外ナラス

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シタルニ上告辯護士柳原經武岡村輝彦ハ前上告趣旨ヲ辯明シタルニ被上告辯護士

黒須龍太郎角田眞平ハ其趣旨ノ理由ナキ旨ヲ答辯シ且黒須辯護士ハ私訴ハ刑事訴訟法ノ規定ニ依リ上告スヘキモノニシテ其規定ニ依レハ三日内ニ上告申立ヲ爲シ五日内ニ趣意書ヲ差出スヘキモノナリ本件ニ付キ上告申立ヲ爲シタルハ秋葉豊中野忠右衛門ノ二名ノミニシテ他ハ上告申立ヲナサレハ趣意書アルモ其上告ハ無効ナリ又原判決中ノ青木榮助白出井七右衛門立野與惣治ハ上告セサルヲ以テ此者ニ對スル判決ハ確定シタルモノナリト陳述シ上告辯護士岡村輝彦ハ秋葉豊中野忠右衛門二名ヲ除キ餘ノ者ハ民事訴訟法第五十條第四項ニ從ヒ右豊及ヒ忠右衛門ニ代理ヲ任シタルモノト看做ス可キヲ以テ其上告ハ有効ナリト主張セリ因テ立會檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

秋葉豊中野忠右衛門ヲ除キ餘ノ四十一名ハ刑事訴訟法第二百七十一條ニ規定シタル期間内ニ上告申立書ヲ差出サス假ニ本件ハ民事訴訟法第五十條ノ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定ス可キトキトアルニ該當シ且ツ上告期間ヲ懈怠シタル者ハ仍ホ懈怠セサル者ニ代理ヲ任シタルモノト看做ス可キモノトスルモ元來公訴附帶ノ私訴ニ付テ刑事訴訟法中特ニ規定アル場合ノ外ハ民事訴訟法ノ規定ヲ適用ス可キモノニ非ス而シテ刑事訴訟法ニハ私訴ノ上告ニ關シ民事訴訟法ノ規定ヲ適用ス可シトノ規定ナシ因テ右四十一名ノ上告ハ成立セサルモノトス

秋葉豊中野忠右衛門代理人柳原經武ノ上告趣旨第三同代理人岡村輝彦ノ上告擴張論旨第三ニ付之ヲ審案スルニ荒川忠四郎ノ警察調書ニ「問汝ハ昨二十八日堤防決潰ノ時ハ何レニ居リシヤ答初メウツケ橋ノ所ニ居リ後チ中ニ入り堤防ノ真中ヨリ少シ西ノ方木ノアル所ニ居リマシタ問汝ハ方能テ爲セシヤ又鋤ニテ決潰セシヤ答方能テアリマシタ」トアルニ依レハ同人カ堤防決潰ノ事實ヲ認メタルモノ、如クナル

モ其後段ニ「答私ハ能ク分リマセンケレトモ橋ノ所ニ板ヲ立テタノ堤防ニ土ヲ揚ケタノト云フ事ヨリ行テ皆カキコワシテ仕舞ヘト云フ事ヨリ參リマシタ」トアルニ依レハ單ニ土ヲ取除キタルコトヲ認メタルニ過キサルモノ、如シ此ノ如ク其陳述疑似ニ涉ル場合ニ於テ之ヲ自白ト認ム可キヤ否ヲ判定スルハ即チ證據取捨ノ權内ニ屬スルヲ以テ原院カ被上告人ノ自白ナシト判定シタルハ不法ニ非ス又他ノ被上告人ニ於テ毀壞ノ事實ト論所ノ堤防ナル事トヲ併セテ認メタル者ナシ故ニ原判決ハ此點ニ於テ毫モ瑕瑾ナシトス此他前掲ノ如ク種々ノ論旨アレトモ一モ上告適法ノ原由ト爲ラス何トナレハ諸般ノ證據ヲ取捨シ事實ヲ認定スルハ原承審官ノ職權ニ屬シ他ヨリ其當否ヲ争フコトヲ得ス又原承審官カ證據ヲ取捨スルニ付テハ一々其理由ヲ説明スルノ義務ナケレハナリ因テ上告ハ相立タス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ總

テ之ヲ棄却ス

上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人ノ負擔トス

○判決要旨

原判文事實理由ノ部ニ「彼等ヲ追散ラス目的ヲ以テ同所ニ停立シ居タル被害者ノ左腿節前外側ヲ突キ股動脈及ヒ股靜脈ヲ切斷シタル後」云々トアレハ故意ニ毆打シタルモノト認ムルニ足レリ又其後段ニ「傷所ノ出血多量ニシテ腦貧血症ヲ起シタル爲メ同所ニ斃レ即死シタリ」云々トアレハ人ヲ毆打シ因テ死ニ致シタルヲ明白ナリ豈ニ之ヲ被害者ヲ退去セシムルノ目的ニ止リ毆打ノ故意ニ非スト云フヲ得ンヤ故ニ刑法第二百九十九條ヲ適用シテ之ヲ處分シタルハ相當ニテ擬律錯誤ニアラス又理由不備ナリト云フヲ得ス(判旨第一點)犯所以外ニ於テ作りタル調書ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルヲ以テ

毆打致死○犯所以外ニ於テ作りタル調書

不法ノ裁判ト云フヲ得ス(判旨第四點)

毆打致死ノ件

明治二十六年刑第六百十六號
明治二十六年六月廿六日宣告

第一審 宇都宮地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告 大瀧四郎太 辯護人 林森 和一肇

明治廿六年五月九日東京控訴院ニ於テ右四郎太カ毆打致死被告事件ニ付宇都宮地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ノ控訴及檢事ノ附帶控訴ヲ審理シ被告ヲ有罪ナリトシ原裁判所カ刑法第二百九十九條ニ依リ重懲役十年ニ處ス犯罪ノ用ニ供シタル短刀一本ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收シ差押ヘアル短刀并綿入ハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ被告ニ還附ス公訴裁判費用金一圓ハ被告之ヲ負擔スヘシト言渡シタルハ相當ニ付刑事訴訟法第二百六十一條前段ニ從ヒ控訴ハ總テ之ヲ棄却スト言渡シタリ

被告ハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告ノ要領ハ原判決ニ依レハ竽管内ヨリ脇差二本ヲ取出シ其一本ヲ抜放チ戸口ニ駈行キ彼等ヲ追散ス目的ヲ以テ同所ニ停立シ居タル治三郎ノ左大腿節前外側ヲ突キ云々又以上ノ各證ニヨリ殊ニ其治三郎ノ傷所カ頭部頸部云々被告カ殺意ヲ生シタルモノトハ確認シ難シ云々トアリテ殺害者ハ四郎太トスルモ當時ノ目的ハ唯々彼等ヲ退去セシムルニ止マリ殺意ハ勿論毆打ノ故意ヲ認メサルモノナルニ刑ノ適用ニ至リ刑法第二百九十九條ノ有意犯トセシハ擬律錯誤ノ裁判ナリ若シ原院カ毆打ノ故意ヲモ認メアリトセン乎判文中彼等ヲ追散ス目的ヲ以テ同所ニ停立スル云々トノミニテハ有意タルコトノ判然セサルノミナラス却テ無意過失ニ出テタリト認メラレタルカ如クニ見ヘ結局擬律錯誤ニアラサレハ理由不備ノ裁判ナリ況ンヤ證人并被告ノ申立ル通り被告カ脇差ヲ取出シタルハ事實ナルモ治三郎ヲ殺害セシハ他人ノ所爲タルニ於テヲヤ故ニ原判決ノ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人原院檢察長野村雄章ハ上告ノ理由ナキ旨答辯書ヲ差出シタリ
被告ヨリ差出シタル上告辯明書ノ要旨ハ第一吹上治三郎ヲ殺シタル
ハ瀬長長次郎ナレモ被告ノ爲メニ治三郎ヲ殺シタルモノナレハ被告
ヨリ此事實ヲ申立サルナリ而シテ山田眞カ證人トシテ申立タル供述
ノ不實ナルコトハ被告カ當時質屋ニ入質シ置キタル木綿綿入ヲ示サレ
是ナリト答ヘタルニ依ルモ明白ナリ第二國峯源三郎等都合四名ヲ證
人トシテ喚問アラントヲ求メタルニ之ヲ採用セス而シテ證明書并證
據物及自宅内ニ血液ノ汚點ナク且長治郎カ證人トシテ訊問ヲ受ケタ
ル節被告方ニ亂入ノ際ニハ居ラスト申立アルモ現ニ道下與助外四名
カ警察又ハ豫審ノ調書并證明書ニ依ルモ長治郎ノ居合セタルコト明カ
ナリ第三差押アル綿南部大島綿入ヲ單ニ綿入トノミ掲ケアルハ理由
不備ナリト云フニアリ仍ホ辯明書願書證據書等ヲ差出シタルモ前論
旨ヲ敷衍スルニ外ナラス

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シタル處被告
辯護士森肇ハ上告趣意ヲ擴張シタリ其要旨ハ第一原判文證據列記中
島田國松以下四名ノ豫審調書ヲ掲ケアルモ單ニ豫審調書トノミアリ
テ證人又ハ參考人ノ資格ヲ判明セサルハ刑事訴訟法第二百三條ニ違
背シタル不法ノ裁判ナリ第二司法警察官ハ現行犯ニ限り被告人證人
ヲ訊問スル等豫審判事ニ屬スル處分ヲ行フコトヲ得ルモ犯所臨檢ノ場
所ニ於テ爲スヘキハ刑事訴訟法第一百十條第四百十四條ノ規定スル所
ナルニ原院ハ足尾分署ニ於テ爲シタル巡查ニ對スル陳述調書ヲ採テ
斷罪ノ資料ニ供シタル不法ノ裁判ナリト同辯護士林和一ノ上告擴張
論旨ハ原判決ハ島田國松ノ供述ヲ分割シ而シテ被告ノ宅前人力車停
車場迄治三郎カ逃去リタリトノ事ハ一件記録中毫モ見ルヘキナシ是
レ想像ヲ以テ事實ヲ認定シタルモノニテ不法ノ裁判ナリト云フニア
リ因テ立會檢察事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

上告論旨ニ付原判文ヲ査閲スルニ事實理由ノ部ニ於テ^前「彼等ヲ追散
 ス目的ヲ以テ同所ニ佇立シ居リタル治三郎ノ左腿節前外側ヲ突キ股
 動脈及ヒ股靜脈ヲ切斷シタル後云々」トアレハ故意毆打シタルモノト
 認メタルコト明白ニシテ猶ホ其後段ニ「而テ治三郎ニ於テハ^中傷所ノ
 出血多量ニシテ腦貧血症ヲ起シタル爲メ同所ニ斃レ即死シタリ云々」
 トアレハ刑法第二百九十九條ヲ適用シテ處分シタルハ相當ニシテ擬
 判旨第一點律ニ錯誤アリ又理由ノ不備ナリト云フヲ得ス上告辯明書ノ第三點ナ
 ル差押物件ニ付テハ單ニ綿入一枚トアルモ其還付スヘキハ綿南部綿
 入ナルコトハ敢テ説明ヲ要セスシテ明カナルノミナラス本按ノ判決
 ニ於テ毫モ利害ノ關係ヲ與フル事柄ニアラサレハ上告理由ト爲ラス
 其他上告論旨并ニ上告辯明ノ論旨ハ都テ原承審官ノ職權ニ屬スル事
 實認定採證ノ當否ニ付テ非難ヲ試ムルニ過キサレハ上告適法ノ理由
 ト爲ラス辯護士森肇擴張論旨ノ第一、島田國松外四名ノ豫審調書トア

ル上ハ各調書其物ニ據レハ則チ其證人トシテ訊問シタル者ナルカ將
 タ參考人トシテ訊問シタル者ナルカハ輒チ之ヲ知り得ヘキ譯柄ナレ
 ハ其孰レタルヲ明言セサルモ敢テ違法トスルヲ得ス其第二、既ニ現行
 犯タル上ハ司法警察官或ハ犯所ニ於テ被告人證人ヲ取調フルコトアリ
 或ハ其官署ニ於テ引續キ之レカ取調ヲ爲スコトアリ都テ此等ハ實際
 ノ便宜ニ據ルヘケレハ其犯所以外ニ於テ作りタル調書ヲ採テ斷罪ノ
 資料ニ供シタルヲ以テ不法ノ裁判ナリト云フヲ得ス辯護士林和一擴
 張論旨ハ要スルニ事實認定上ニ付原判決ノ當否ヲ非難スルモノニシ
 テ上告適法ノ理由ト爲ルヘキ筋合ニアラス
 右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之
 ヲ棄却ス

判旨第四點

○判決要旨

上訴中ノ刑期起算

上訴中未決勾留ヲ受ケサル者ニ在テハ上訴中ノ日數ヲ其刑期ニ算入セスシテ刑ノ執行ヲ爲スヘキモノトス

誹毀罪抗告ノ件

明治二十六年刑第六百八十一號
明治二十六年六月二十七日決定

原裁判所 宮城控訴院

被告 志毛井確太郎

右誹毀事件ニ付明治廿六年四月廿七日宮城控訴院ニ於テ重禁錮十五日罰金五圓ニ處セラレ右刑ノ執行ニ件異議ノ申立ヲ爲シ同院ハ明治廿六年六月廿二日ニ申立ハ其理由ナキモノナルヲ以テ之ヲ棄却スル旨ヲ言渡シタリ
被告ハ右ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲シタリ其要旨ハ宮城控訴院カ異議ノ申立ニ對シ棄却ノ決定ヲ爲シタルモ本件ハ刑期ノ滿了シタルモノナレハ刑ノ執行ヲ爲スコトヲ得サルニ原院ノ如ク決定シタルハ不法ナリト云フニ在リ

宮城控訴院ハ抗告ノ理由ナキ旨ノ意見ヲ付シタリ
大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百九十七條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
刑法第五十一條ヲ審按スルニ其第一號第二號ハ犯人上訴中勾留ヲ受ケタル場合ナルコトハ其第三號ニ於テ上訴中保釋又ハ責付セラレタル者ハ上訴正當ナルルルル又ハ檢察官ノ上訴ニ係ルルト雖モ其日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得サルモノトナシタルニ由リテ明白ナリ然ラハ本件被告ノ如キ上訴中未決勾留ヲ受ケサル者ニ在リテハ上訴中ノ日數ヲ其刑期ニ算入セス刑ノ執行ヲ爲スヘキハ當然ニシテ原院ノ決定ハ相當ナレハ本按抗告ハ理由ナキモノトス依テ刑事訴訟法第三百條ニ依リ之ヲ棄却ス

○判決要旨

公判始末書ニ裁判長判事ノ署名ノミニテ捺印ナキルハ法律ニ違背

公判始末書ノ捺印

スル文書ナリ是ニシテ違法ナル上ハ正當ニ法則ヲ履行シタル公判ナルヤ否ヤヲ鑑査スルニ由シ無キヲ以テ破毀ノ原因ヲ免レサルモノトス刑訴二一〇條二〇條

誣告ノ件

明治二十六年刑第六百二十號
明治二十六年七月十日宣告

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告 檉村糸吉 辯護人 高木益太郎

右糸吉カ誣告事件ニ付明治廿六年五月廿二日東京控訴院ニ於テ東京地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ被告ハ大久保久七ヲ陷害セント不實ノ告訴ヲ爲シタルモノトシ其所爲刑法第三百五十五條第二百二十條二項ヲ適用シテ處斷スヘキモノトス故ニ原裁判所カ前記ノ事實ト法條トニ依リ被告ヲ重禁錮六月ニ處シ罰金四圓ヲ附加スト言渡シタルハ相當ニシテ控訴ハ理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第二百六十一條ノ規定ニ從ヒ本案控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタリ

被告糸吉ハ右判決ヲ不法ナリトシ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ凡ソ誣告罪ハ檢事ニ於テ公訴ヲ提起スルニアラスンハ成立スルモノニアラス然ルニ本案ハ右等ノ事實之レナキニモ拘ハラス有罪ノ斷定ヲナシタルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人原院檢事長野村維章ハ上告ノ理由ナキ旨答辯セリ

上告辯護士高木益太郎カ提供セル上告趣意擴張書ノ要旨ハ第一原判文ニ「被告糸吉ハ(中畧)大久保久七ハ既ニ三月十日ニ於テ元利金二百三圓九十錢ヲ受取り置キナカラ二重ニ請求ヲ爲シ遂ニ公賣處分ヲ以テ金圓ヲ詐取シタルモノナリト不實ノ事ヲ構ヘ久七ヲ陷害セント明治廿五年十二月十三日東京地方裁判所檢事ニ告訴ヲ爲シタルモノト判決ス」トアレモ元來被告ニ於テ大久保久七ヲ陷害スルノ惡意アリト見ルヘキ證據全ク存在セサルノミナラス原判文ニ其誣告ヲ爲シタル手段方法ヲ明示セス被告ニ有罪ノ斷定ヲナシタルハ法則ニ違背セリ且

夫レ誣告罪ハ一旦告訴ヲ爲セハ其結果如何ニ拘ハラズ直チニ其罪ヲ問フヘキモノニアラス其結果被告訴人ニ及ヒ始メテ其罪ヲ論スヘキナリ是蓋シ刑法ニ於テ誣告罪ヲ刑法第三編第一章身體ニ對スル罪ノ節目中ニ規定シタル所以ナラン是故ニ誣告罪ヲ以テ處斷スルニハ宜ク告訴ノ結果如何ヲ判明セサルヘカラス只檢事ニ告訴ヲ爲シタリト云フノミニテハ未タ判決ノ理由備ハレリト云フヲ得ス然ルニ原判文ニ「東京地方裁判所ニ告訴ヲ爲シタルモノト判定ス」トアルノミニテ檢事ハ如何ノ手續ヲ爲シタル歟被告訴人ハ如何ナル害ヲ被リタルカ告訴ノ結果如何ヲ審及セス輒スク有罪ノ判決ヲ爲シタルハ事實理由ノ不備ナリ右ハ明治廿二年第七十三號上告事件ニ對シ本院ノ判例アルニ付辯護人ハ原院ニ於テ右判例ヲ援引シ第一審判決ノ不當ナルヲ論難シタルニ此點ニ對シ理由ヲ付シテ判決ヲ爲サ、ルハ法則ニ違背セリ第二本件公判始末書ヲ閱スルニ裁判長ノ捺印ヲ缺キタルヲ以

テ右始末書ハ刑事訴訟法第二百十條及第二十條ニ違背スル文書ナリ既ニ公判始末書ニシテ如此違法ノ文書ナル上ハ原院ノ公判ハ果シテ正當ニ法則ヲ履行シタルヤ否ヤ監別スル能ハス從テ原裁判ハ破毀セラレヘキモノト確信ス(明治廿六年六月廿六日小花時次郎上告事件ニ破毀ノ判例アリ)第三第一審判決ニ違法ノ點アルキハ第二審裁判所ハ之ヲ取消シ更ニ相當ノ判決ヲ要スルモノナリ今第一審判決ヲ閱スルニ其證據列記ノ部ニ大久保久七ノ始末書トアリ依テ該始末書ヲ諦視シタルニ個ハ豫審判事宛ノ文書ニシテ其書面ニハ之ヲ作りタル大久保久七ノ捺印ナク則チ刑事訴訟法第二十條第二項ニ違背スルモノナルヲ以テ之ヲ第一審裁判所カ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不當ナルト明瞭ナリ是故ニ原院ニ於テ右ノ論旨ヲ被告辯護人ヨリ控訴ノ理由トシテ論述シタリ然ルニ原院ハ第一審判決ノ不當ヲ認め則チ右證據ヲ斷罪ノ資料ニ供セサルニモ拘ハラズ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ失當ナ

リ又第一審判決證據ノ部ニハ裁判言渡書ノ現在トアレモ第二審判決書ニハ裁判言渡書謄本トアリ故ニ彼ハ原本ヲ指シ是ハ謄本ヲ指シタルモノナリ而シテ押収書類中裁判言渡書ノ謄本ハアレモ其原本即チ裁判言渡書ハ素ヨリ存在セサル書類ナリ且第一審判決ハ物件還付ノ言渡ヲナスニ當リ相當ノ法條ヲ示サ、ル缺點アリ如此第一審判決ハ數個ノ缺點アルヲ以テ第二審裁判所ハ被告全部控訴ノ申立ニ基キ以上違法ノ點ヲ更正スヘキニ輒スク被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シタルニ辯護士高木益太郎ハ自ラ提供シタル擴張書ノ趣旨ヲ敷衍シ且更ニ追加シテ第一誣告罪ヲ構成スルニハ其誣告スル所罪ト爲ルヘキ事柄ナルヲ要ス然ルニ原判文ニ認メタル事實ニ據レハ被告訴人カ民事上二重取ノ請求ヲ爲シタリトノ點ナリ假令民事上二重取ノ請求ヲ爲スモ詐欺取財トナルヘキ事柄ニ非ス又公賣處分ニ因リ金圓ヲ取ルモ詐欺取財セサルニ有罪ト爲シタルハ不法ナリ第二原院ニ於テ本件ハ未タ被害者ノ推問ヲ始メサル以前ニ於テ告訴ヲ取下ケタリトノヲ申立タルニ此爭點ニ對シ何等ノ判決ヲ爲サ、ルハ不法ナリト論辯セリ依テ立會檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルト左ノ如シ
辯護士高木益太郎カ上告趣意擴張論旨第二前段ニ依リ公判始末書ヲ査閱スルニ裁判長判事松田道夫ト自署シタルモ名下ニ其捺印ナシ果シテ之レカ捺印ナキモノトスレハ該公判始末書ハ刑事訴訟法第二百十條同第二十條ニ違背スル文書ナリ已ニ公判始末書ニシテ違法ナル上ハ原院ノ公判ハ正當ニ法則ヲ履行シタルヤ否ヤヲ鑑査スルニ由シ無キモノトス依テ原裁判ハ破毀ノ原因アルヲ免レス既ニ此點ニ於テ破毀ヲ認メタレハ他ノ上告論旨ハ説明スルノ要ナシ

右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ更ニ適法ノ裁判ヲ受ケシムル爲メ宮城控訴院ニ移スモノナリ

●判決要旨

凡ソ被告人ノ上告ハ必ス被告人自己ノ利益ノ爲メニ關スル事ナラサル可ラス其不利益若クハ犯罪構成上處刑上影響ヲ生セサル事項ニ對シ爲シタル上告ハ成立セサルモノトス

詐欺取財證書偽造證書變造ノ件

明治二十六年刑第六百七十四號
明治二十六年七月十日宣告

第一審 名古屋輕罪裁判所岡崎支廳

第二審 廣島控訴院

被告 林 文三郎

右文三郎外廿一名ニ對スル詐欺取財證書偽造證書變造事件ニ付キ明治廿二年一月八日名古屋輕罪裁判所岡崎支廳ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告文三郎ヨリ名古屋控訴院ニ控訴シ尙其判決ニ服セス大

審院ニ上告シ同院ニ於テ名古屋控訴院ノ判決ヲ破毀シ東京控訴院ニ移送セリ文三郎尙同院ノ判決ニ服セス上告シ大審院ハ再ヒ之ヲ破毀シ大阪控訴院ニ移シタリ文三郎復タ同院ノ判決ニ服セス再三上告ヲ爲シ大審院三タヒ之ヲ破毀シ廣島控訴院ニ移送セシ處同院檢事木村喬一郎ハ本案被告文三郎ノ所爲中名古屋東京大阪ノ三控訴院歴裁ノ間無罪ノ宣告ヲ受ケタルアリ又文三郎ニ於テ服罪セシ事項ナキニ非スト雖右第二審ノ判決ハ悉ク大審院ニ於テ破毀セラレタル上ハ岡崎支廳ニ於テ文三郎ノ所爲ヲ有罪ト判決セシ事項ニ立戻リ審理ヲ爲スヘキモノナリトテ第一乃至第九項ノ事實ヲ述ヘ取調ヘテ求メタリ然ルニ被告文三郎ハ自分カ大審院ニ爲シタル上告ハ皆一分ノ上告ニ係ルヲ以テ各第二審判決ニ於テ無罪ト爲リタル點即チ第二第六第八第九ノ事項并ニ第七ノ中鈴木智惠松ヲ欺キ金一圓七拾錢ヲ騙取シタリトノ十第四ノ中四拾圓ノ約定證書ヲ偽造シタリトノ一及ヒ大阪控訴

院ノ判決ニ服從シタル點即チ第三ノ事項ハ已ニ確定シタルモノナレハ名古屋輕罪裁判所岡崎支廳ニ於テ有罪ト判決セラレシ各事項ニ溯リ取調ヲ受クヘキモノニアラスト答辯セリ

明治廿六年六月五日廣島控訴院ニ於テ一件記録ヲ查閱シ審理ノ上各廳判決ノ綱領ヲ示シ而テ本件ハ毎ニ第二審裁判所カ有罪ト判決セシ中被告文三郎ヨリ其不服ノ點ノミニ對シ一分上告ヲ爲シ以テ大審院ノ破毀スル所ト爲リタルモノナレハ其上告ヲ爲サ、ル部分即チ名古屋東京大阪三控訴院ニ於テ無罪ト爲シタル事項及ヒ文三郎カ大阪控訴院ノ判決ニ服從シタル事項ハ第二審ノ判決確定セシヲ以テ此事項ニ付テノ公訴ハ刑事訴訟法第六條第三號及ヒ第百八十六條第二項ニ依リ受理ス可カラサル言渡ヲ爲スヘキモノトス此理由ニ依リ當院立會檢事ノ陳述ニ係ル文三郎ノ所爲中第二第三第六第八第九及ヒ第七ノ中鈴木智恵松ヲ欺キ金一圓七拾錢ヲ騙取シタリトノ第四ノ中四

拾圓ノ約定證書ヲ偽造行使シタリト云フ文三郎ノ所爲ニ付テノ公訴ハ之ヲ受理セスト中間判決ヲ爲シタリ

廣島控訴院檢事長奥山政敬右判決ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其趣意左ノ如シ

本件ハ大審院ノ移送ニ係ルモノナリ大審院ハ大阪控訴院ノ判決全部ヲ破毀シタル者ナリ而テ其破毀ノ趣意ハ應當檢事附帶上告論旨ノ如ク刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ背キタル書類ニテ裁判ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナク破毀ノ原由アルモノトス既ニ判決破毀スヘキモノナル上ハ被告カ上告論旨ニ對シ當否ノ辯明ヲ要セス刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ更ニ判決セシムルモノ也トアリ即チ破毀ノ原由ハ違法書類ニ在リテ必竟被告カ大阪控訴院ニ於テ受ケタル判決ノ得失ニ拘ラス事件全體ヲ破毀シ更ニ廣島控訴院ニ於テ判決セシムル趣意ト解釋ス故ニ廣島控訴院ハ大阪控訴院ニ於テ被告ニ利益

ノ言渡ヲ爲シタル點ニ對シテモ審理セサル可カラサルナリ何トナレハ控訴ハ岡崎支廳ノ第一審判決ニ對スルニアリテ而テ大阪控訴院ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲シタル點即チ廣島控訴院ノ判決第三(第一審)ハ第一審ニ於テハ有罪ノ判決ヲ與ヘ名古屋控訴院ニ被告ヨリ控訴シタル一部ニ外ナラサレハナリ然ルニ廣島控訴院カ此一部ニ對シ公訴受理セスト言渡シタル判決ハ刑事訴訟法第二百六十九條第五ニ當ル不法ノ判決ト思料スルニ付適法ノ判決ヲ求ムル爲メ上告ニ及フト云フニ在リ

對手人被告文三郎ハ本按事件ニ付明治廿一年以來六年ノ久シキ縲紲ノ身トナルカ故ニ體力衰弱セシハ勿論廣島控訴院ノ判決書中既ニ確定ト認メラレシ大阪控訴院ニ於テ第一審裁判ヲ取消シ犯狀最モ重キト爲シ更ニ重禁錮四年二月罰金三十五圓監視一年八月ニ處セラレタル刑ニ因テ起算スルモ主刑ハ去ル二月十五日滿限ニ相當セリ仍テ至急判決アラント切望ニ堪ヘスト答辯セリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三號ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

凡ソ被告人ノ上告ハ被告人自己利益ノ爲メニナスヘク不利益若クハ犯罪構成上處刑上影響ヲ生セサル事項ニ對シ爲シタル上告ハ成立セサルモノトス本按被告文三郎カ各第二審ノ判決ニ對シ爲シタル上告ノ如キモ毎ニ其控訴院ニ於テ有罪ノ宣告ヲ受ケシ部分即チ判決ノ一部ニ就テ爲シタルモノナルトハ一件記録ニ徴シテ明了ナリトスサレハ大阪控訴院ノ判決ニ對スル被告ノ上告モ有罪ト認定セラレシ部分ニ止マリ之ニ附帶シテ起リシ本院檢事ノ上告モ主タル被告ノ上告事件ノ範圍外ニ出テス隨テ本院カ之ヲ破毀シテ廣島控訴院へ移送セシ事件モ亦タ被告ノ上告事件ノミ何人モ上告セスシテ確定セシ事件ハ其中ニ包含セサルナリ故ニ廣島控訴院ニ於テ刑事訴訟法第六條第三

號及ヒ同法第百八十六條第二項ニ據リ前掲ノ如ク判決セシハ相當ニシテ同院檢察長ノ上告ハ其理由ナキモノトス仍テ刑事訴訟法第百八十五條ニ從ヒ本按上告ハ之ヲ棄却スル者也

○判決要旨

冒認罪ハ共犯者財ヲ分チタルト否ヲ問ハス現ニ其罪ヲ犯シ被害者ト親屬ノ關係ナキ者ハ其制裁ヲ受クヘキハ當然ナルノミナラス地所ヲ買受タル者ニ對シテモ罪ヲ成スモノナレハ所有者ト親屬ノ關係アルノミヲ以テ其罪ヲ論セサルモノト謂フヲ得ヘカラス何ントナレハ刑法第三百九十八條ニ第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セストノミアリテ親屬ニアラサル共犯者財ヲ分チタル片ニ限り處罰スルノ法規ナケレハナリ(判旨第八點)

私印私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治二十六年刑第七百五十一號
明治二十六年七月十日宣告

第一審 廣島地方裁判所尾道支部

第二審 廣島控訴院

被告 嵐田久治
ト部忠雄

右私印私書偽造行使詐欺取財事件ニ付明治廿六年六月五日廣島控訴院ニ於テ廣島地方裁判所尾道支部ノ判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ受理シ被告兩名カ私印偽造使用ハ刑法第二百八條第一項第二百十二條地所讓渡證書地所賣渡證書委任狀登記願書偽造行使ハ第二百十條第一項第二百十二條地所冒認販賣ハ第三百九十三條第一項第三百九十條第三百九十四條ニ該リ尙ホ久治ハ輕罪ノ再犯ニ付第九十二條ニ依リ本刑ニ一等ヲ加ヘ共犯ニ付第四百四條ニ依リ各正犯トシ數罪俱發ニ付第百條末項ヲ適用シ一ノ重キ讓渡證書偽造行使ニ從ヒ處斷スヘク偽造證書ハ第四十三條第一項ニ依リ沒收シ其他ノ差押書類ハ各差出人ニ還付シ公訴費用ハ各被告ニ於テ連帶負擔スヘキモノトス然ルニ原裁判所ニ於テ冒認賣渡ノ日時場所ヲ明示セサルハ失當ノ判決ナルヲ

以テ之ヲ取消シ更ニ被告久治ヲ重禁錮一年三月罰金十圓監視六月ニ處シ被告忠雄ヲ重禁錮十月罰金五圓監視六月ニ處シ偽造ノ讓渡證書一通ヲ沒收シ他ノ書類ハ差出人ニ還付シ公訴裁判費用ハ被告等ヲシテ連帶負擔セシムト言渡シタリ

被告兩名ハ右裁判ニ對シテ上告ヲ爲シタリ
被告久治カ上告ノ要旨ハ第一本件ノ行爲ハ相被告タル岩太郎ノ命スル所ニ出タルコトハ各豫審調書ニ明ニシテ原院ノ認ムル所ナルニ被告ノ發企ニシテ岩太郎ヲ同意セシメタリトセシハ虛無ノ事實ヲ捏造シタル越權ノ裁判ナリ第二前段ニハ九月三十日ニ本件地所賣買ヲ結了シタルコトヲ明示シナカラ後段ニ至リ其登記ヲ受タルハ十月一日トセリ是レ賣買ニ必要ナル登記ヲ受ケサル前ニ在リテ賣買ノ結了シタルモノトナセル齟齬ノ甚シキ判決ナリ第三偽造ナリトセル地所讓渡證書ハ登記所ニ差出タル後チ何人カ其下渡ヲ受ケタルヤ其人ヲ明示セ

サルハ事實ノ不備ナリ第四曾テ大月ヨリ金圓ヲ借受ケタル事アリト認メナカラ被告ノ内何人カ借受タルカ其人ヲ明示セサルハ不備ナリ第五冒認罪ハ所有者ニ對スル罪ニアラス第三者即チ大月ニ對スル罪ナリ然ルニ原院ハ大月ニ被害ナキコトヲ認メナカラ冒認シテ登記ヲ經タル所爲ノミニ對シ刑法第三百九十三條第一項第三百九十條ヲ適用シ既遂ヲ以テ論シ第三百九十七條ヲ適用セサリシハ擬律ノ錯誤ナリ第六原院カ委任狀登記願名刺ヲ偽造行使シタル所爲ヲ刑法第二百十條ノ第一項ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤ナリ第七原院カ數罪俱發例ヲ適用スルニ當リ私書偽造ノ罪ヲ以テ私印偽造ノ罪ヨリモ重シトナシタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ
被告忠雄ノ上告要旨ハ第一原判文ニ印ヲ偽造セシメタル後豫テ被告久治ノ懇意ナル云々ト掲ケ孫次郎ヲ呼起シ次テ忠雄ニ及ホシタル文詞ニ依レハ被告ノ同意セシハ印類偽造ノ業ニ成リタル後ニ於テ迅速

ニ書入質ヲ爲ス點ニノミ止マリ其以前ナル印類偽造ニ關係ナキヲ認メタルナリ然ルニ私印偽造ノ正犯ナリトシ刑法第二百八條第一項ヲ適用シタルハ不當ナリ若シ偽造セシモノヲ行使スレハ偽造ニ與カラサルモ尙ホ偽造セシト同一ナリトセンカ其理由ヲ明カニセサルヘカラス然ルニ毫モ之ヲ掲ケス故ニ原判決ハ擬律ノ錯誤若クハ理由ノ不備二者其一ニ在ルモノナリ第二判文ノ如ク孫次郎ヨリ内情ヲ被告ニ語タルコトハ一件記録中之ヲ見ルヘキノ證ナク全ク架空ノ事實ヲ認定シタルモノナリ又タ本件ニ付利益ヲ得ントスルモノハ岩太郎久治ノ二人ニシテ被告ハ固ヨリ希望スル所ナシ惡意ハ利益ヲ欲スルノ念慮ト並行スルモノナレハ既ニ利益スル所ナケレハ惡意ナク犯罪ノ要素ヲ欠クモノナリ故ニ被告カ所爲ハ刑法第七十七條初項ニ從ヒ無罪ノ斷定ヲ下スヘキニ然ラザリシハ不法ナリ第三代理人ヲ以テ登記ヲ受クルキハ委任狀ヲ以テ代理ヲ證シ受任者ノ名ヲ以テ登記願書ヲ差

出スモノナリ故ニ其願書ハ委任ニ基キ受任者ノ權内ニ於テ作ルモノナレハ即チ委任狀ヨリ生スル結果ニシテ別ニ偽造罪ヲ組成スヘキモノニ非ラス假リニ別罪ヲ成ストスルモ登記願書及ヒ登記委任狀ハ權利義務ニ關スル證書ニアラサレハ刑法第二百十條第一項ニ問擬シタルハ不法ナリ第四地所讓渡證書謄本及地所賣渡證書謄本ヲ偽造行使シタル所爲ハ其證書ハ權利義務ニ關セサルヲ以テ之ヲ刑法第二百十條第一項ニ問擬シタルハ不法ナリ第五賣買登記出願ニ必要ナル地所賣渡登記願書ノ偽造行使ノ有無ノ明示ナク又タ登記願書一通トアリテ讓渡登記願書ナルカ將タ賣渡登記ノ願書ナルカ之ヲ明示セサルハ事實ノ不備ナリ第五ハ久治ノ上告論旨第三ニ同シ第六本件數罪ノ内地所冒認賣買ヲ以テ所犯重キモノトシテ處斷スヘキニ讓渡證書偽造行使ヲ以テ重シトシタルハ不法ナリ第七他ノ證書類ヲ沒收シナカラ地所賣渡登記願ノミ差出人ニ還付スト言渡シタルハ失當ナリ第八冒

認罪ハ詐欺取財中ノ一罪ナリ而シテ詐欺取財ハ親屬ニ係ルルハ共犯人未タ財ヲ分タサルニ於テハ其罪ナシトス故ニ本件ニ付冒認罪ヲ以テ處斷シタルハ失當ナリ第九原判文ニ相被告久治ノ肩書ニ中郷村トアレモ同人出生ハ中郡村ナリ又タ被告ノ肩書ニ字吉津町トアレモ被告カ寄留シ居ルハ字古吉津町ナリ斯ク誤脱アルハ不當ナリト云フニ在リ

原院檢事木村喬一郎ハ上告ノ理由ナキ旨答辯ス

被告忠雄ハ更ニ辯明書ヲ差出シタリ其要旨ハ第一登記ハ當事者又ハ其代理人ヨリ之ヲ請求スヘキハ法則ノ定ムル所ナリ然ルニ原判決ハ被告カ當事者トシテ證書ヲ提出シタルカ將タ代理人トシテ提出シタルカ其事實ヲ明示セサルハ理由ノ不備ナリ第二梅田鼎ハ梅田サイノ代人ナレハ其受任ノ權ヲ行ヒ登記所ニ出頭シタルヤ登記濟證ヲ受取タルヤ否ヤヲ示サ、ルハ不法ナリ第三原判決ニ忠雄ハ大月喜美比古ヲシテ地所賣渡證書ヲ受取ラシメタリトアレモ被告ニ於テ之ヲ受取ラシムルノ權能ナク又タ登記所ハ大月一人ニ證書ヲ交付スル等登記法ニ悖ル所爲アルヘカラス殊ニサイ岩太郎間ノ讓渡證書ノ如キハ提出ノ當時登記後ノ手續ヲ示サスシテ易々登記ヲ經タリト判定セシハ不法ナリ第四讓渡證書謄本外四通ヲ沒收スヘキニ沒收セサルニ付法條ヲ示サ、ルハ不法ナリ第五地所賣渡登記願書ヲ沒收セサルヨリ見レハ之ヲ差出人ニ還付スルノ判意ナラン然レモ之ヲ還付スルトスレハ地所讓渡證書正本ヲ除クノ外總テ還付スヘキニ彼是ヲ區別シテ沒收ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告久治カ上告要旨第一ハ原承審官ノ職權ニ特任セル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルモノニシテ上告ノ理由トナラス第二登記ハ契約

結了ノ上爲スヘキモノナレハ賣買結了ノ後登記ヲ爲シタルモノト認メタルハ當然ナリ第三本件ノ地所讓渡證書ヲ提出シ讓與ノ登記ヲ受タル以上ハ其登記濟ノ旨ヲ記載シタル證書ノ何人ニ下付セラレタルカハ之ヲ明示スルノ必要ナシ何トナレハ其下付ヲ受タル人ノ如何ニ依リテ犯罪ノ構成ニ異動ヲ生スルモノニアラサレハナリ第四曾テ大月喜美比古ヨリ金借セシハ何人ナルカハ判文ニ之ヲ明示セストナスモ固ヨリ本按犯罪構成ノ事實ニアラサルヲ以テ理由ノ不備ナリトセス第五梅用サイ所有ノ地所ヲ岩太郎ノ所有ナリトシ之ヲ大月喜美比古ニ賣渡シ了リタルモノナレハ即チ他人ノ不動産ヲ冒認販賣シタルモノニシテ假令喜美比古ニ於テ未タ代價ヲ拂渡スニ至ラサルモ冒認販賣ノ所爲ヲ遂ケタル者ニシテ原院カ既遂ノ罪トシテ處斷シタルハ相當ナリ第六登記請求ノ委任狀ハ登記ニ關スル契約者ノ權利義務ニ代ルイテ證スルモノナルヲ以テ之ヲ偽造行使スルニ於テハ刑法第二

百十條第一項ヲ以テ處斷スルヲ相當ナリトス然レ登記願書ハ契約者雙方署名捺印ノ上差出スヘキモノナレハ之ヲ偽造スルルハ其罪ヲ成スヲ勿論ナルモ結約者ノ權利義務ヲ證スルモノニ非サルヲ以テ原院カ之ヲ刑法第二百十條第一項ニ問擬シタルハ失當ニシテ此點ニ於テ上告ハ其理由アリトス第七輕罪ノ數罪俱發ノ場合ニ於テ所犯情狀ノ重キモノヲ判別スルハ原承審官ノ權内ニ在ルヲ以テ其判別ノ當否ヲ論難スルモ上告ノ理由トナラス

被告忠雄上告要旨第一被告カ本件ニ加功シタルハ私印偽造既ニ成リタルノ後ニ在リト雖レ判文ニ「更ニ被告久治孫次郎忠雄共同被告岩太郎ハ梅田サイノ偽造印ヲ使用シ云々金圓ヲ取得セント謀議シ云々」トアリテ被告カ右偽造私印ノ行使ヲ爲シタル事實ハ明白ナリ私印偽造罪ハ其行使ニ依リテ成立スルモノナレハ自カラ偽造ニ干與セサルモ偽造印タルイテ知リ之ヲ行使シタル以上ハ其制裁ヲ免カレルイテ得

ヘカラス故ニ原判決ハ相當ナリトス第二前段ハ事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルモノニシテ上告ノ理由トナラス其後段ハ惡意ナシト論訴スルモ偽造印ヲ使用シ證書ヲ偽造シ地所ヲ冒認販賣シ金員ヲ取得スルノ意思ヲ以テ本件ノ所爲ヲ行フタルモノナレハ犯罪ノ要素タル惡意ナシト謂フヲ得ス第三ハ被告久治ノ上告第六ニ對スル説明ノ如ク前段ハ其理由ナク後段ハ上告ノ理由アリトス第四原判決ハ謄本ノ偽造行使ヲ罪トシテ問フタルモノニアラス第五原判文ニ「梅田サイ代人梅田鼎名義ノ地所讓渡登記願書各一通ヲ偽造シ」トアリテ偽造罪ニ問擬シタルハ讓渡登記願書ナルト明瞭ナリ賣買登記願書ニ付テハ其偽造行使アルトヲ認定セサルモ既ニ其賣買登記ヲ受ケタル事實アレハ賣渡證書ノ行使及ヒ冒認販賣ノ罪アリトスルニ十分ナレハ理由ノ不備アリトナサス第五第六ハ被告久治ノ上告第三第七ニ對スル説明ニ依リ了解ス可シ第七沒收ハ一ノ附加刑ナルニ地所賣渡登記願書ニ

判旨第八點

對シ之ヲ言渡サ、ルヲ不當トスル論旨ハ歸スル所自己ノ不利益ナルトヲ主張スルモノニシテ上告ノ理由トナラス第八刑法第三百九十八條ヲ按スルニ第三百七十七條ニ掲クル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セストノミアリテ親屬ニアラサル共犯者財ヲ分チタルハ限リ處罰スルノ法規ナケレハ冒認罪ニ付テハ財ヲ分チタルト否ヲ問ハス現ニ其罪ヲ犯シ被害者ト親屬ノ關係ナキ者ハ其制裁ヲ受クヘキハ當然ナルノミナラス冒認罪ハ地所ヲ買受タル者ニ對シテモ罪ヲ成スモノナレハ所有者ト親屬ノ關係アルノミヲ以テ其罪ヲ論セサルモノト謂フヲ得ヘカラス第九判文上被告ノ肩書ニ誤記アリトスルモ人違ヒニアラサルト明カナル以上ハ上告ノ理由トナラス辯明第一假リニ當事者ニモアラズ代人ニモアラサル被告ノ請求ニ依リ登記所ハ其請求ヲ受理シ法則ニ悖ル所アリトスルモ既ニ登記簿ニ登記シタル上ハ偽造證書ノ行使アリタルモノナレハ被告カ當事者又ハ代理人ノ資格ヲ以テ登記

ヲ請求シタルヤ否ノ事實ヲ明示セサルモ敢テ理由ノ不備ナリトセス
 第二梅田鼎カ「サイ」ノ代人タルハ被告ノ虚構シタル事實ナレハ同人
 カ登記済ノ證ヲ受ケサルハ明白ナリ第三前段ハ事實ノ認定ヲ批難ス
 ルモノニシテ適法ノ理由ナシ後段偽造ノ讓渡證書ヲ提出シ登記ヲ受
 タル事實ノ外本案ヲ斷スルニ登記ニ係ル手續ヲ示スノ必要ナシ第四
 被告ノ控訴ニ係ルヲ以テ沒收セスト説明スル以上ハ刑事訴訟法第二
 百六十五條ヲ適用シタルハ明瞭ナレハ判文ニ其法條ヲ掲ケサルモ不
 法ナリトセス第五前述ノ如ク第二審ニ於テ被告ノ不利益ニ原判決ヲ
 變更スルヲ得サルヲ以テ第一審ニ於テ沒收シタル讓渡證書正本ノ外
 ハ各差出人ニ還付シタルモノニシテ此點ニ於テ違法ノ廉ナク上告ハ
 其理由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ被告久治カ上告第六後段被告忠雄カ上告第三後
 段ニ付テハ刑事訴訟法第二百八十七條ニ依リ之ニ關スル原判決擬律
 ノ一部ヲ破毀シ本院ニ於テ判決シ其他ノ上告ハ同法第二百八十五條
 ニ依リ之ヲ棄却ス

右

嵐 田 久 治
 ト 部 忠 雄

原判決ニ認定シタル事實ニ依リ被告兩名カ梅田サイ代人梅田鼎名
 義ノ地所讓渡登記願書一通ヲ偽造行使シタル所爲ハ刑法第二百十
 條第二項第二百十二條ニ該當ス其他ハ原判決ノ通

○ 判決要旨

判決文理由ノ部ニ「再犯ニ係ルニ付各本刑ニ一等ヲ加ヘ」云々トノミ
 記シ適用スヘキ法條ヲ示サ、ルニ於テハ何等ノ理由ニ依リテ再犯
 ニ一等ノ重キヲ加フルカノ理由明カナラス乃チ刑事訴訟法第二百

再犯加重

三條第一項ノ規定ニ背キ理由ヲ明示セサル不法ノ判決ナリ

私印盜用私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治二十六年刑第七百八十四號
明治二十六年七月十日宣告

第一審 廣島地方裁判所三次支部

第二審 廣島控訴院

被 告 弓場清次郎

右清次郎等ノ私印盜用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治廿六年六月十六日廣島控訴院ニ於テ被告人及ヒ第一審廣島地方裁判所三次支部ノ檢事ヨリノ控訴ヲ審理シ被告ノ所爲ヲ有罪ト認定シ米預リ證書ノ偽造行使ハ刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ詐欺取財未遂ハ同法第三百九十七條第三百九十條第一項第三百九十四條第三百二條ニ該當シ輕罪再犯ニ係ルヲ以テ各本刑ニ一等ヲ加ヘ同法第三百九十條第二項ニ從ヒ證書偽造行使ノ罪ヲ重シト爲シ處斷スヘク米預リ證書ハ第四十三條ニ依リ沒收スヘキモノトス又タ被告清次郎カ富田熊藏ノ印影ヲ盜用シタリトノハ證據充分ナラサルヲ以テ刑事訴

訟法第二百五十八條第一項第二百三十六條第二百二十四條ニ依リ無罪ヲ言渡スヘキモノナリ仍テ原判決一部ヲ取消シ更ニ被告清次郎ヲ重禁錮一年ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス印影盜用ノ點ニ付テハ無罪トス押收ノ米預リ證書ハ官ニ沒收ス云々ト判決セリ
被告清次郎右判決ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨左ノ如シ
第一 原判決ニ半紙一枚ヲ所持セシヲ奇貨トシ明治廿五年十月中自宅ニ於テ右半紙ヲ用ヒ云々トノミアリテ犯罪日時ヲ明示セサルハ理由不備ノ判決ナリ
第二 河野伊吉ノ告發狀及ヒ申立ト中村千代太郎ノ申立トハ全ク反對スル事實ヲ表明スルモノナルニモ拘ハラヌ此二箇ノ申立ト告發狀トヲ採テ用テ斷案ノ證據トセシハ違法ノ判決ナリ
第三 廣島地方裁判所明治廿五年ツ第一二五號ノ訴訟記録ヲ被告人清次郎ニ示シ辯解ヲ爲サシメヌシテ之ヲ斷罪ノ證據ト爲シタルハ不

法ナリ

第四 判文事實理由ノ末尾ニ清次郎カ前科アルヲ認メ而テ之カ再犯加重ノ刑ヲ適用スルニ當リ法條ヲ示サレサルハ法律上ノ理由ヲ欠ケル違法ノ判決ナリ

第五 被告人清次郎私書偽造行使ト詐欺取財トノ二罪アルコト則數罪俱發ナルヲ認メナカラ之レカ法則ヲ適用スルニ方リテ法條ヲ示サレサルハ前項ト同シキ誤リアル判決ナリ

右ノ理由ナルニ付前判決全部破毀ヲ乞フト云フニ在リ
對手人原控訴院檢察長奥山政敬代理檢察木村喬一郎ハ被告人ノ上告論旨中第四ノ點ヲ除ク外適法上告ノ理由ナキ旨答辯シ且附帶上告ヲ爲シタリ其要領左ノ如シ

第一 原判文ニ被告人清次郎ハ何人ヨリ入手セシカハ詳カナラサルモ富田熊藏ト書シ其名下ニ同人ノ實印ヲ押捺シアル半紙壹枚ヲ所持

シタルヲ奇貨トシ明治廿五年十月中自宅ニ於テ右半紙ヲ用ヒ云々トアリ個ハ理由ノ詳悉ヲ欠キシ判定ニシテ大ニ解釋ニ苦ム所ナレモ之ヲ判文前後ノ照應ト案件覆審ノ事實ニ由リ推斷セハ告訴人富田熊藏ノ外何人ヨリ入手セシカハ詳カナラサルモノト判定セシモノニシテ熊藏其人ヨリ交付ヲ受ケシモノニ非ラサリシコトハ確然判定セシモノナリ若シ否ラサレハ富田熊藏ノ記名ハ素ヨリ熊藏ノ筆蹟ニアラス其盜用ナリトシテ告訴セシモノナレハ相當其事由ヲ明示セサル等ナケレハナリ抑刑法第二百八條第二項ハ盜捺使用、換言セハ他人ノ承諾ナキ印影ヲ不正ノ用ニ供セシモノヲ責罰スルノ律意ニシテ縱シ盜捺ハ他人ノ手ニ成リシモノトスルモ不正ノ用ニ供セシモノ即チ使用セシモノハ盜用ノ責罰ハ免カレ得ヘキニアラス故ニ本案ノ如キ熊藏於テ承諾ナキ印影ニシテ且ツ他人ノ署名ニ成リシ半紙ヲ或ル他人ヨリ交付ヲ受ケ偽造ノ用ニ供セシ場合ヲモ包含セサル可カラサルナリ果

テ然ラハ判文前段ニ盗用ノ事實ヲ確然認定シタルニモ拘ハラヌ後段ニ其證憑充分ナラストシテ無罪ヲ言渡シタルハ刑事訴訟法第二百六十九條第十項ニ掲クル所ノ理由アルモノトス

第二 原判文ニ明治廿四年十二月廿五日舊預リ主中村愛兵衛同富田熊藏ヨリ預ケ主弓場清次郎ニ宛テタル米五拾八石七斗五升ノ無利息米預リ證書ヲ偽造シ之ヲ以テ熊藏ヨリ證書面記載ノ米員半額ヲ騙取セント企圖シ先ツ明治廿五年十月中三次區裁判所へ支拂命令ヲ申請シ其命令ニ依リ熊藏及ヒ愛兵衛ニ係リ該證書面記載ノ米員全部支拂ヲ督促セシ所熊藏ニ異議ヲ申立ラレタル爲メ更ニ云々トアリ該判定ニ依レハ中村愛兵衛ハ熊藏ト同シク被害者ナリシヤ將タ清次郎ノ共謀者ナリシヤ明瞭ナラス何トナレハ愛兵衛熊藏ノ米預リ證書ヲ偽造シ熊藏及ヒ愛兵衛ニ係リ米員全部ノ支拂ヒヲ督促セシトアルニ依レハ熊藏ト比シク被害者ト判定セシモノ、如ク然ルニ米員半額ヲ騙取セントシテ遂ケサリシモノトシ及ヒ愛兵衛名下ノ實印ハ如何ニ成立セシカラ示サヌ殊ニ判文後段偽造ノ米預リ證書ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收ストアルニ由レハ愛兵衛カ三次區裁判所ノ支拂命令即チ偽造ノ米預リ證書ニ對シ金額九拾五圓ヲ清次郎ニ交付シ内濟シタル事實ヲ忽諸ニ付シ清次郎ノ共謀者ナリト判定セシ者ノ如クナレハナリ要スルニ事實理由ノ齟齬不備ニシテ刑事訴訟法第二百六十九條第九項ニ掲クル理由アルモノトス

第三 原判文ニ原裁判所ニ於テ被告人清次郎カ熊藏ノ印影ヲ盗用シタリトノ點ニ對シテハ何等ノ判決ヲモ與ヘス却テ中村愛兵衛ノ印影ヲ盗用シタルモノト判決シタルハ失當ナルノミナラス云々トアリ熊藏ノ印影ヲ盗用シタル點ニ對シ判決ヲ與ヘサリシハ素ヨリ失當ナルモ私書偽造行使事件ヲ審判スルニ方リ附帶事件トシテ中村愛兵衛ノ盗用罪ヲ處罰セシハ刑事訴訟法第百八十四條ヲ適施セシモノナレハ

決シテ失當トシテ取消ノ理由トナルヘキニアラス右ノ如ク不法ノ判決ナレハ更ニ相當ノ判決ヲ乞フト云フニ在リ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告人清次郎上告第四點ニ付キ原判決ヲ監査スルニ其法律理由ノ部ニ「再犯ニ係ルニ付キ各本刑ニ一等ヲ加ヘ云々」トノミアリテ適用スヘキ法條ヲ示サス何ノ理由ニ依リ再犯ハ一等ノ重キヲ加フルカノ理由明カナラス即チ刑事訴訟法第二百三條第一項ノ規定ニ背キ法律ノ理由ヲ明示セサル不法ノ判決ナリトス既ニ此點ニ於テ破毀ノ原由アル上ハ自餘ノ上告諸點并ニ檢事附帶上告等ニ對シテハ一々説明ノ要ナシトス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決全部ヲ破毀シ更ニ適當ノ判決ヲ爲サシムル爲メ之ヲ大阪控訴院ニ移送ス

明治二十六年十月二十七日印刷
明治二十六年十月二十八日發行



大審院藏



印刷者兼發行者

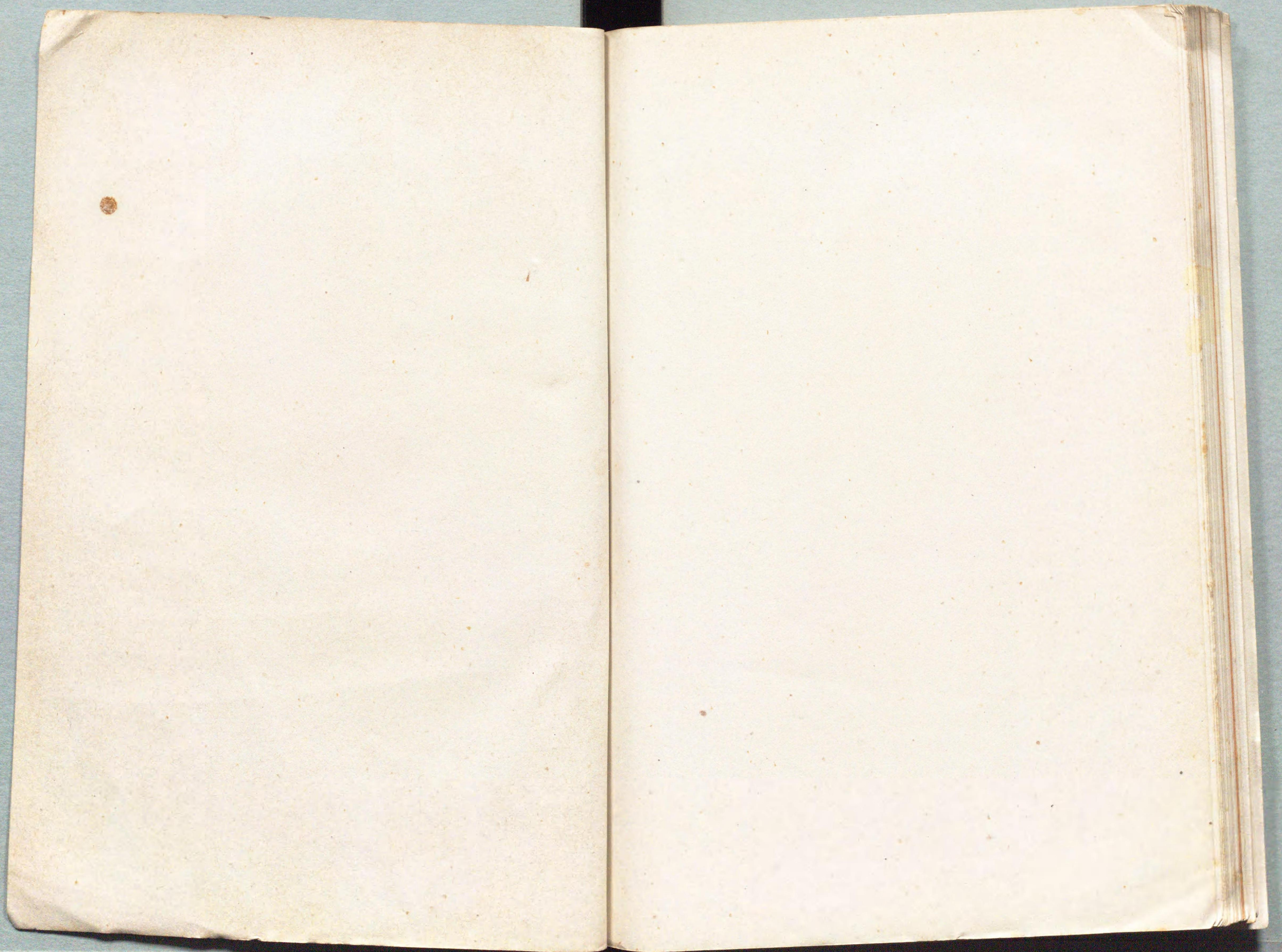
東京市京橋區銀座四丁目一番地
長尾景彌

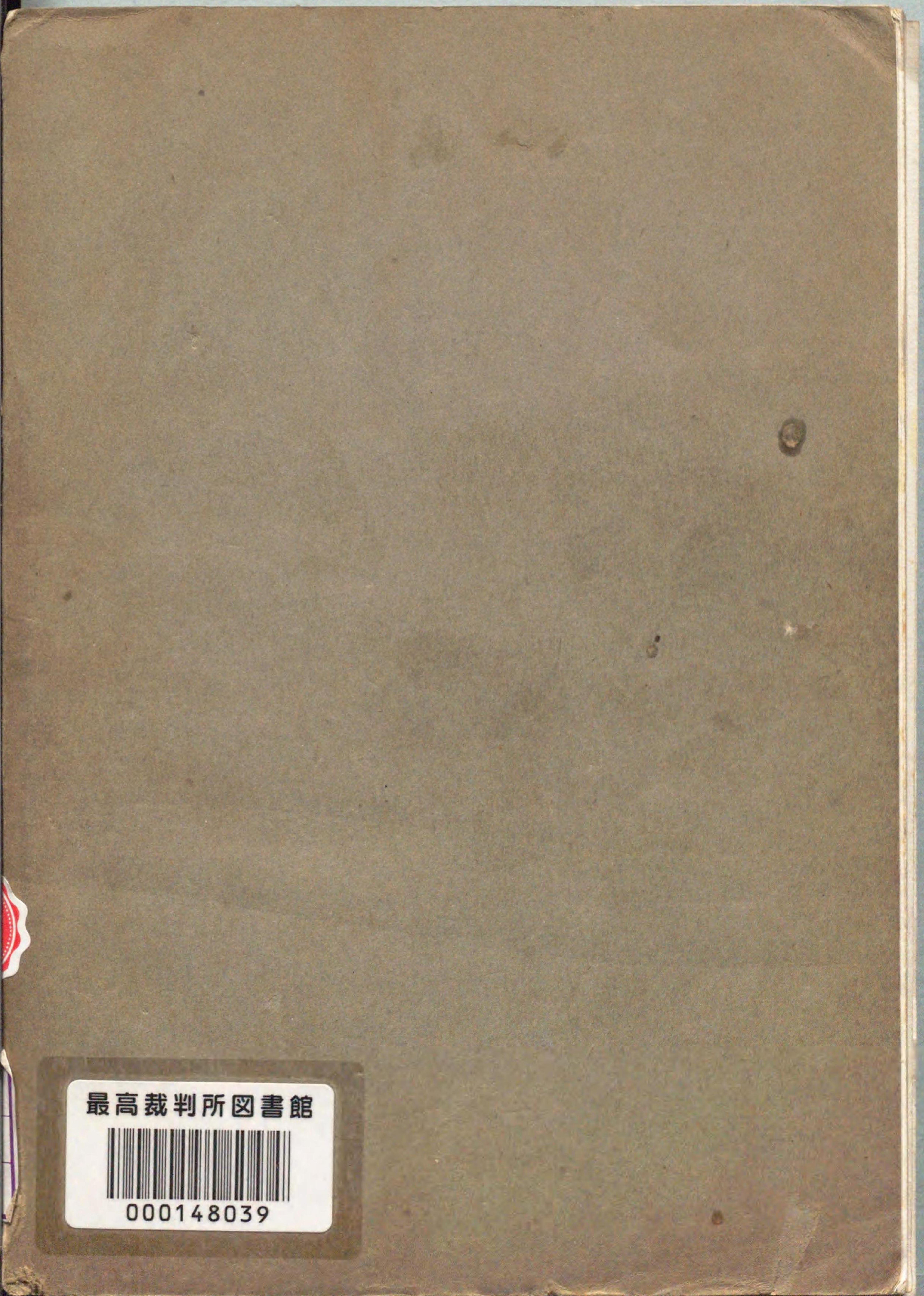
發賣所

東京市京橋區銀座四丁目一番地
博聞社

WR1.0
D27
93(5-7)



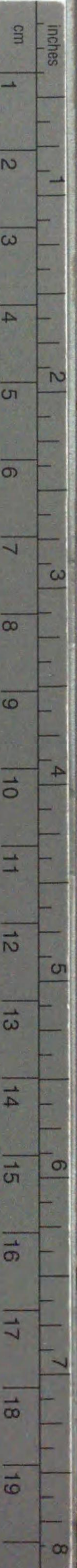




最高裁判所図書館



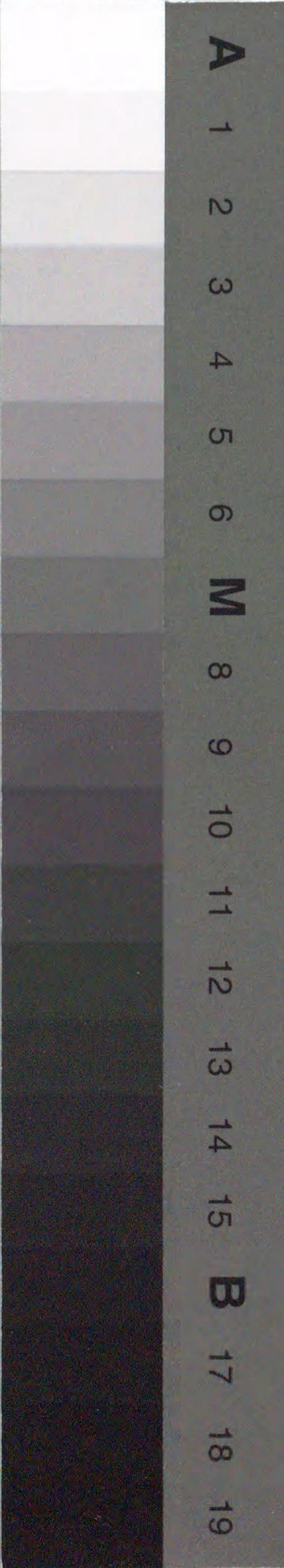
000148039



Kodak Color Control Patches



Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

© Kodak, 2007 TM: Kodak